

第5章 地域の将来像〈地域別構想〉

1 地域区分の設定

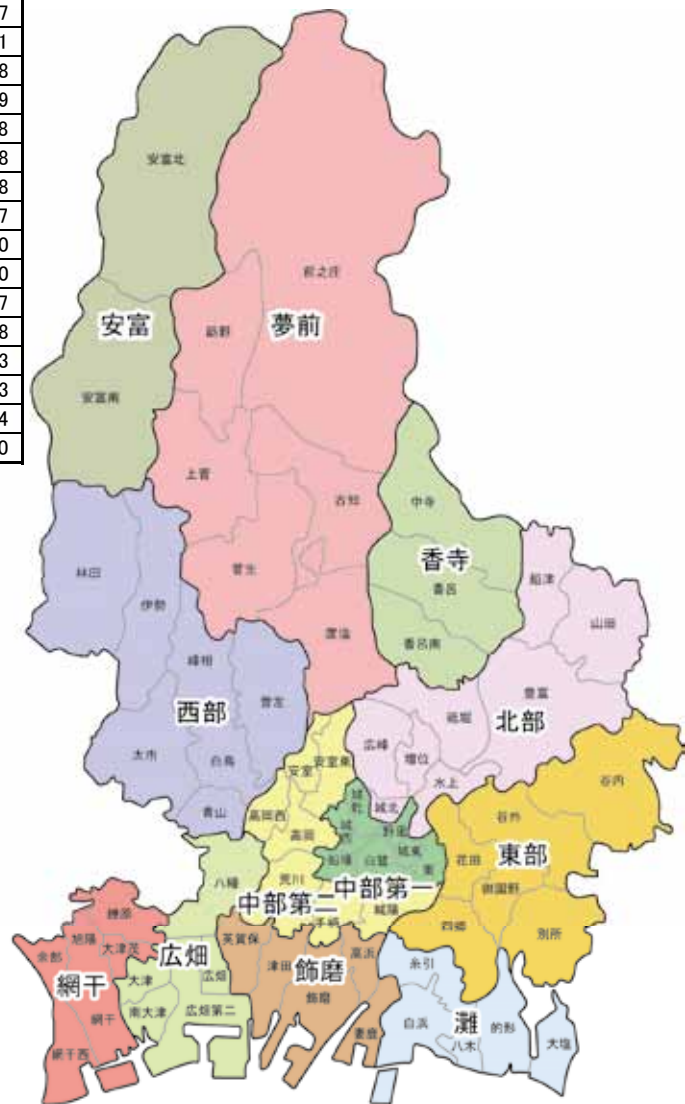
地域別構想は、全体構想を基本として市域を地域ごとに区分し、それぞれの地域づくりの基本的な方向を示すものです。面積、人口、土地利用等を勘案しながら、複数の小学校区のまとまりである地域ブロックを単位として、地域別構想を策定します。

また、地域ごとの将来像図に示している幹線道路や公園の整備など都市計画事業等の実施に当たっては、地域住民が中心となって掘り起こした地域資源の保護、保存、活用に配慮するなど、特色ある地域づくりを目指します。

地域ブロック	人口		面積	
	人	%	K m ²	%
中部第一	50,371	9.4	9	1.7
中部第二	86,199	16.1	22	4.1
網干	51,015	9.5	20	3.8
広畑	52,495	9.8	21	3.9
飾磨	63,382	11.8	20	3.8
灘	41,119	7.7	20	3.8
東部	40,417	7.5	47	8.8
北部	58,586	10.9	52	9.7
西部	42,408	7.9	64	12.0
香寺	19,115	3.6	32	6.0
都市計画区域	505,107	94.2	307	57.7
家島	5,987	1.1	20	3.8
夢前	19,812	3.7	146	27.3
安富	5,364	1.0	61	11.3
都市計画区域外	31,163	5.8	227	42.4
市全域	536,270	100.0	534	100.0

注1：人口は平成22年国勢調査

注2：校区は平成24年3月31日現在



■ 地域区分の設定

2 中部第一ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

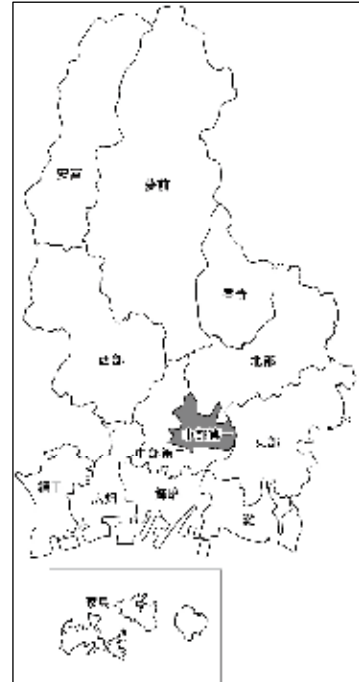
中部第一ブロックは、白鷺・野里・城東・東・船場・城西・城乾校区からなる地域です。

本市の中心に位置する中部ブロックのうち、世界文化遺産姫路城の旧城下町を中心とする地域であり、明治22年市制施行当初の市域におおむね該当します。

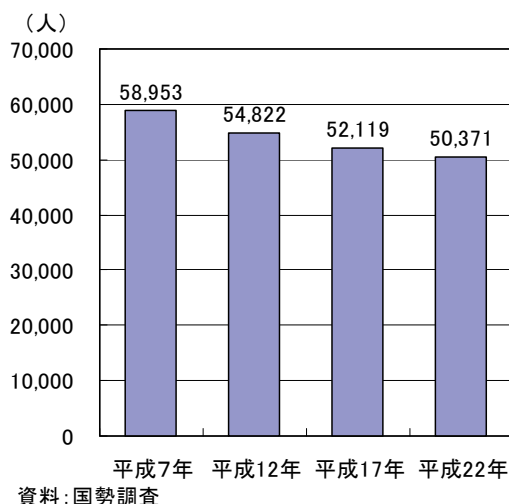
旧城下町を中心に古くから商業地が発展し、社寺等の歴史文化の香りを残した商業地として、また、播磨地域の中心商業地として育ってきました。

本地域における当面の課題として、世界文化遺産姫路城の保全と継承、鉄道高架事業により発生する広大な貨物ヤード跡地等を活用したにぎわいの創出、JR姫路駅を中心とする南北市街地の一体化の促進、居住人口の回復等があげられます。

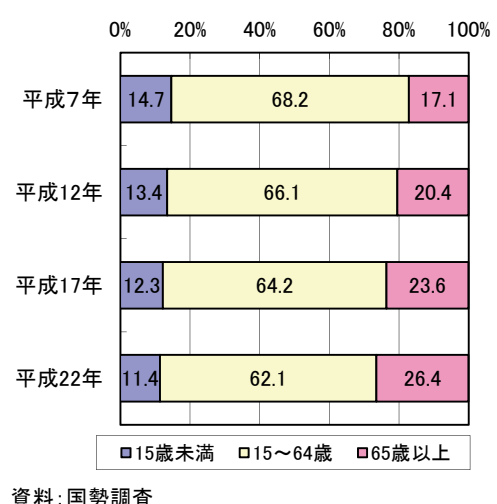
現在、JR姫路駅周辺地区では、都心部まちづくりの指針である「姫路市都心部まちづくり構想」に基づき、姫路駅周辺土地区画整理事業や関連道路事業、施設整備を総合的に行うキャスティブ 21を進めています。



■ 人口の推移



■ 年齢3区分別人口の推移



② 地域づくりのテーマ

歴史を育み、賑わいと感動あふれる中心商業都市

③ 地域づくりの目標

◇ 世界文化遺産姫路城など歴史的資源を生かした国際観光都市づくり

世界文化遺産姫路城の保全と継承に力を注ぐとともに、都心部に集積する歴史的・文化的資源の活用による都心の魅力を高め、国際観光都市の構築を目指します。

◇ 感動と楽しさあふれる回遊性の高い都心づくり

高度な商業集積や多彩なイベントの展開を図るとともに、地域の特性を生かしつつ回遊性の高い都心の形成を目指します。

◇ 播磨の中核都市として魅力と活力ある都心づくり

文化、教育、交流、情報サービスなど高次都市機能の集積と基盤整備を進め、あわせて都心居住を促進し、播磨の中核都市にふさわしい魅力と活力ある都心の形成を目指します。



キャッスルガーデン



JR姫路駅北駅前広場から見た大手前通り

（２）地域づくりの方針

① 拠点等

ア 主核（商業核）

- ・主核は、本市の交流や流通、ビジネスの拠点のみならず、播磨地域の社会、経済活動の核となるもので、内環状道路（国道２号線、国道線、内環状東線、船場川線）に囲まれた区域を位置付けます。
- ・本地域にあたる駅北地区は、主に商業核としての性格を持つ拠点として位置付け、既存の商業・業務機能に加え、多彩なイベントの開催等により、楽しく賑わいのある都心の形成を図ります。また、城下町姫路のイメージの再現や世界文化遺産姫路城へのプロムナードとしての役割を強化し、都心回遊の拡大を図ります。
- ・鉄道高架事業や土地区画整理事業、関連道路整備事業等とあわせて、キャスティ21の推進により商業、情報通信、文化、交通交流等の高次都市機能を集積し、21世紀の播磨の発展の核としてふさわしい魅力と活力ある都心の形成を図ります。

イ 歴史文化ゾーン

- ・世界文化遺産姫路城とその周辺地区を位置付けます。
- ・世界文化遺産姫路城の保全と継承に力を注ぐとともに、城と調和した景観の形成を図ります。また、世界文化遺産姫路城の周辺地区では、文化シンボルゾーンとして既存文化施設等の充実と活用を図り、より魅力的で親しめる空間の整備を推進します。

ウ 都心回遊軸

- ・ＪＲ姫路駅を起点として、北は大手前通り周辺から世界文化遺産姫路城の周辺に伸びる動線、南は駅南大路周辺から市役所周辺へ伸びる動線、東西へは環状道路の整備等による回遊動線を都心回遊軸として位置付けます。ＪＲ姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を促進し、主核の中心性の充実を図るため、人々の動きを誘導する賑わいのある回遊空間の形成を図ります。
- ・都心回遊を支援するバスルートの充実や自転車利用の促進を図ります。

エ 歴史街道軸

- ・西国街道、銀の馬車道、野里街道等の古道を歴史街道軸として位置付け、街道沿いの歴史的町並みを保全するとともに、世界文化遺産姫路城をはじめ、地域に散在する歴史文化遺産を散策、回遊できる歴史・文化ネットワークの形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・ＪＲ姫路駅周辺の内環状道路に囲まれた区域を拠点商業業務地とし、その周辺に商業業務地を位置付けます。都心部にふさわしい商業、文化、交流、コンベンション等の高次都市機能の集積を図るとともに、魅力ある個店づくりや特色ある商業・業務街区の形成を進め、地域住民や来街者の回遊の拡大を促進します。特に、キャッスルガー

デンを含めた J R 姫路駅北駅前広場の整備に引き続き、キャスティ21に基づきコアゾーンやイベントゾーンの整備を推進します。

- ・世界文化遺産姫路城から J R 野里駅に至る城東線や野里街道沿道は、歩行者を中心とした沿道型の商業業務地として位置付けます。

（街なか居住の促進）

- ・街なか居住による居住者の増加を図るため、居住環境や利便性の向上等を図るとともに、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業により、老朽化した建築物等の円滑な建替え、改修の促進を検討し、良好な住宅等の供給を図ります。

イ 工業系

- ・城東町、東郷町、千代田町等の既存の内陸工業地では、引き続き工業地としての土地利用を図ります。

ウ 住宅系

- ・国道線（国道2号）と J R 山陽新幹線に挟まれた複合住宅地では、軽工業あるいは商業施設等との調和のとれた住宅地の形成を図ります。
- ・専用住宅地及び一般住宅地では、世界文化遺産姫路城への眺望や周辺の独立丘陵との調和に配慮しながら、中低層住宅地として良好な住環境の形成を図ります。

エ 保全系

- ・世界文化遺産姫路城がある姫山や八丈岩山等の市街地に近接する独立丘陵は、良好な都市環境や都市景観の形成はもとより、歴史的にも重要な緑として保全を図ります。

③ 都市施設

ア 交通施設

ア) 公共交通

- ・姫路駅周辺においては、バスや自家用自動車等との交通結節機能を強化するため、J R 姫路駅南駅前広場の整備を推進するとともに、安全な歩行者動線の確保と通過交通の抑制を図ります。
- ・J R 山陽本線の御着駅～姫路駅間において新駅の設置を促進し、鉄道へのアクセス性の向上を図ります。また、新駅の設置にあわせて、駅前広場やアクセス道路の整備を推進します。
- ・都心循環バスの導入検討を進めるとともに、案内誘導や情報提供の充実を図ることにより、都心回遊を支援します。
- ・書写付近～姫路駅間の路線バスについては、バス優先レーンの設置や公共車両優先システムの導入等により定時性、速達性を高めます。

イ) 道路

- ・内環状道路、中環状道路（国道2号線、城北線、大日線、中央南北幹線）等を骨格と

した幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路については、廃止を含めた見直しを行います。

- ・ J R 姫路駅を中心とする南北交通の円滑化と南北市街地の一体化を図るため、中環状道路、内環状道路、内々環状道路の整備を推進します。
- ・ J R 姫路駅から世界文化遺産姫路城への魅力ある眺望を確保し、城と調和した風格あるまちなみを形成するため、大手前通りの再整備を図ります。
- ・ 姫路駅やその周辺地区において、あらゆる訪問者に対する総合的なバリアフリー化を推進します。

ウ) 駐車場

- ・ 本市が目指す公共交通中心の交通体系への転換、さらに J R 姫路駅周辺地区のまちづくりの進捗等を踏まえ、駐車場整備計画や都市計画駐車場など都心部における駐車対策の見直しに取り組みます。

エ) 自転車利用環境

- ・ 環境負荷の小さい交通手段等として自転車の利用を促進するため、大手前通りや環状道路等の広幅員道路において、自転車歩行者道への自転車通行位置の明示等を行い、歩行者と自転車が共存した安全で快適に通行できる空間の確保を図ります。

イ 公園・緑地

- ・ 世界文化遺産姫路城及びその周辺の区域では、「特別史跡姫路城跡整備基本計画」に基づき、緑の保全管理を進めるとともに、姫路公園にふさわしい施設整備の検討を進めます。
- ・ 将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。

ウ 下水道・河川

- ・ 老朽化した下水道施設の長寿命化、計画的な更新を図るとともに、姫路駅周辺地区や姫路駅南西地区の土地区画整理地内では、事業の進展にあわせて未整備区域の解消を図ります。
- ・ 都市化の進展に伴う雨水流出量の増大と集中豪雨による浸水被害の軽減を図るため、管きよの流下能力の向上、雨水排水施設の整備など浸水対策を進めます。
- ・ 世界文化遺産姫路城の外堀であった外堀川については、外濠公園北側及び西側の環境整備に引き続き、国道線以北において城と調和した歴史を感じさせる親水空間の創出等を検討します。
- ・ 市街地内の河川については、地域住民との協働による美化浄化活動を促進します。

④ 防災

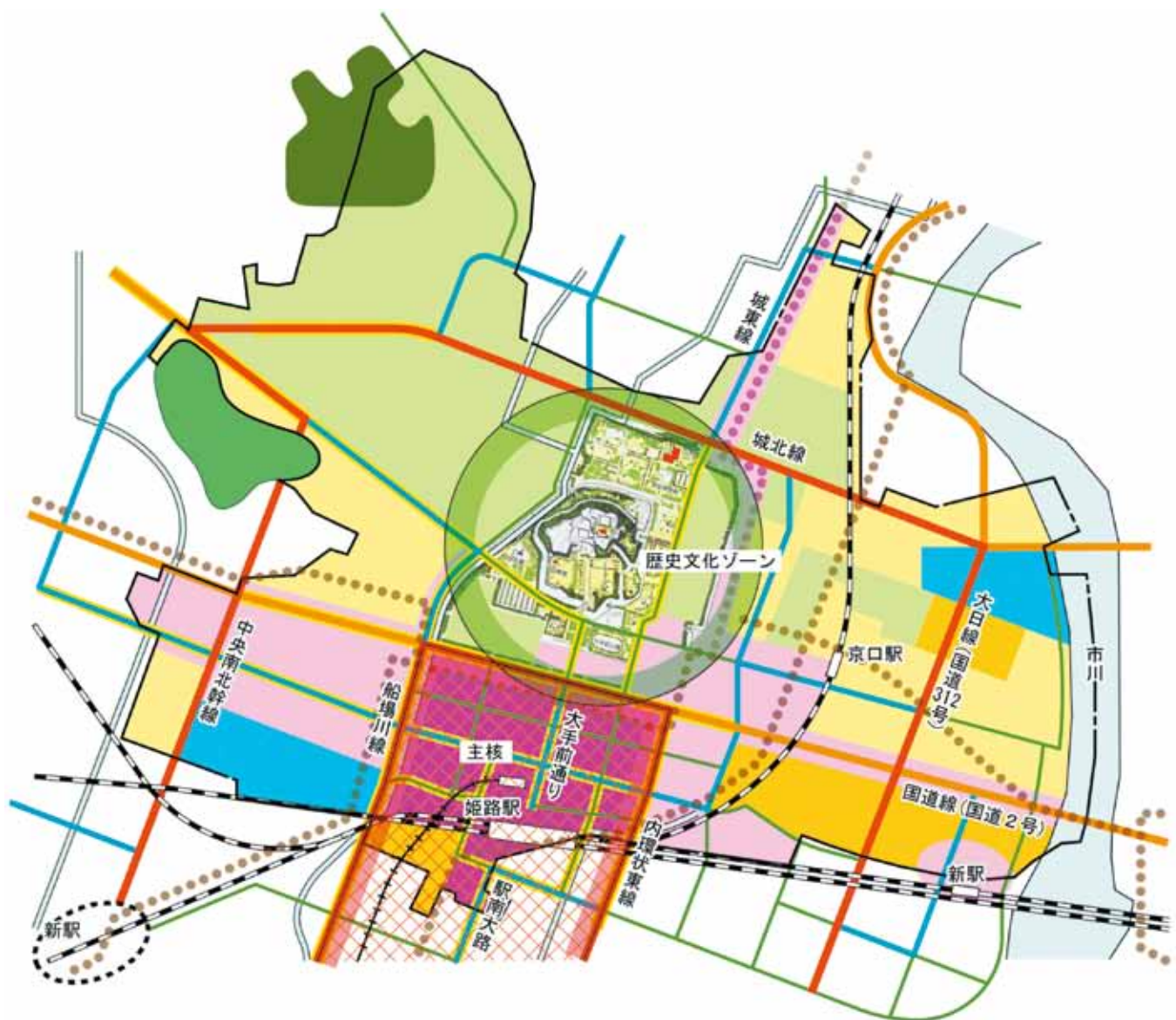
- ・ 地域防災拠点として中央支所、姫路公園を配置するとともに、各小学校をコミュニテ

ィ防災拠点として配置します。

- ・JR姫路駅においては、災害時の帰宅困難者に対応するため、交通事業者との緊密な連携を図るとともに、帰宅困難者等の対応が可能な施設の確保を図ります。
- ・市街地における面的な不燃化、難燃化を促進するため、防火地域・準防火地域制度の活用を図ります。
- ・姫路城南地区、本町白鷺町周辺、野里街道周辺及び柿山伏・龍野町・西新町周辺においては、老朽化した木造家屋が密集し、地震発生時の建物倒壊や延焼危険度が高いため、都市計画道路の整備や生活道路の拡幅とともに、地域住民との連携により建築物の建替え、耐震・不燃化を促進するなど、安全な市街地環境への改善を図ります。

⑤ 景観

- ・世界文化遺産姫路城は、姫路らしい景観を形成する上で極めて重要な役割を担っているため、世界文化遺産姫路城とそれを囲む史跡を復元、修復するとともに、城を核とした水と緑のうるおいある美しい景観の形成を図ります。
- ・世界文化遺産姫路城を中心とする姫路城周辺地区において、歴史的建築物の保全と活用を図るとともに、姫路城と調和した風格ある景観形成と姫路城に配慮した眺望景観の保全を図ります。
- ・野里街道、西国街道沿いに残る歴史的な町並みの保全、継承を図るとともに、景観形成上重要な建造物については、まちづくりの中での活用を図ります。
- ・「歴史のみち」の整備を推進するとともに、大手前通りの再整備を図るなど城下町にふさわしい道路景観の創出を図ります。
- ・景福寺山や市川の豊かな自然景観を保全するとともに、住民参加による身近なまちづくりの取組を促進し、地区の特性に配慮した美しい街なみの創出等を図ります。



凡		例		
土地利 用		都 市 施 設		
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路	主要公園・緑地・墓園
商業業務地	専用住宅地	幹線道路(環状)	歴史街道軸	一級・二級河川
工業地	農地・集落地	幹線道路(放射)	J R 線	水辺
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路(その他)	山陽電鉄	自転車レーン等整備路線

■ 中部第一ブロックの将来像

3 中部第二ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

中部第二ブロックは、城陽・手柄・荒川・高岡・安室・安室東・高岡西校区からなる地域です。

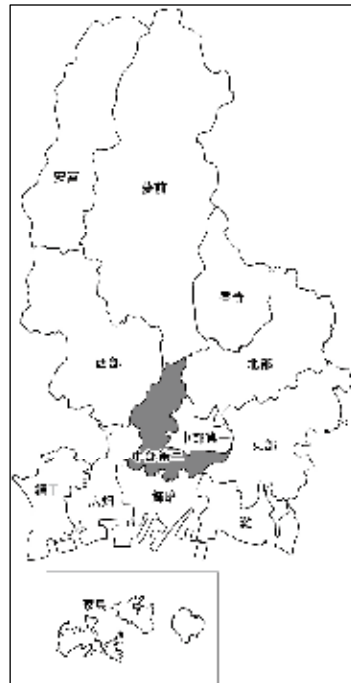
本市の中心に位置する地域であり、ほとんどが市街地地域となっています。

本地域はJR線により南北に分断され、南側の区域では市街化が遅れていましたが、昭和35年の駅南土地区画整理事業の着手に始まる地域内各所での土地区画整理事業により、JR姫路駅南部の市街地発展のための仕掛けづくりが始まりました。

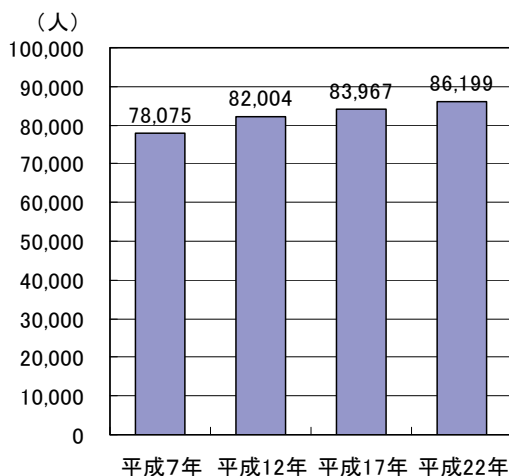
駅南土地区画整理事業に続き、昭和43年からの中部土地区画整理事業により、姫路市の骨格となる駅南大路が開通したほか、昭和55年には市庁舎が移転され、また組合施行による土地区画整理事業により、機能的な市街地の整備が進められてきました。

現在、JR姫路駅周辺地区において進めてきた鉄道高架事業が完了し、土地区画整理事業や関連道路事業による環状道路網等の整備が進む中で、南北市街地の分断が解消されつつあります。

内環状道路（国道2号線、国道線、内環状東線、船場川線）に囲まれた主核については、中心市街地と臨海市街地を結ぶ都市軸を形成するゾーンとして、今後とも都市機能の充実、魅力の向上等が必要となっています。

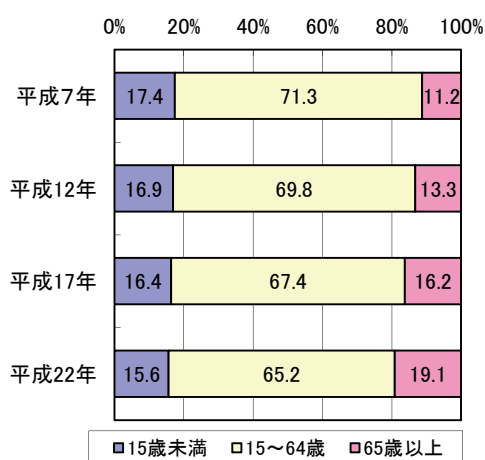


■ 人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

② 地域づくりのテーマ

人々が集い賑わいのある生活便利都市

③ 地域づくりの目標

◇ 都心部と臨海部を連携する魅力的な都市軸づくり

行政サービスの集積地や商業業務地としての機能的で高度な土地利用を図るとともに、シンボルロードである駅南大路を骨格として、地域内の様々な資源を連続、連携させた賑わいと魅力ある都市軸の形成を目指します。

◇ 多様なライフスタイルに対応する利便性に優れた生活空間づくり

都心部に集積された都市施設を活用し、幅広い世代が、それぞれのライフスタイルに応じて多様な住まい方を選択できるよう、利便性に優れた生活空間の形成を目指します。

◇ 緑豊かでゆとりと潤いのある住宅市街地づくり

播磨風土記に記された八丈岩山等の丘陵周辺の住宅地を中心に、道路や公園等の都市施設が整い、緑豊かでゆとりと潤いのある住宅市街地の形成を目指します。



区画整理により整備された駅南大路



手柄山中央公園

（２）地域づくりの方針

① 拠点等

ア 主核（業務核）

- ・主核は、本市の交流や流通、ビジネスの拠点のみならず、播磨地域の社会、経済活動の核となるもので、内環状道路に囲まれた区域を位置付けます。
- ・本地域にあたる駅南地区は、主に業務核としての性格を持つ拠点として位置付け、中部第一ブロックにあたる駅北地区の商業核と一体となった商業業務地を形成するとともに、駅南大路、運河公園等で魅力ある都市景観の形成を図ります。

イ 行政サービスゾーン

- ・市役所周辺及び国、県の行政機関が集積した地区を位置付けます。
- ・駅北地区の商業核と南部副核の山陽飾磨駅周辺地区とのほぼ中間に位置し、都市軸に沿った人の流れの中間地点として、各種行政サービスをはじめとする様々な業務機能等を備えた、人々が集い憩いの場となる魅力的な空間づくりを進めます。

ウ 広域防災拠点

- ・手柄山中央公園を位置付けます。
- ・大規模災害時における広域的な救援・救護・復旧活動等のための拠点として、被災地外からの人員、物資を集結、搬送するための設備や緊急情報の通信施設等の整備を図ります。

エ 歴史街道軸

- ・本地域には、世界文化遺産姫路城を中心に東西に延びる西国街道、都市軸を南北に縦断する飾磨街道等が通っています。これらの古道を歴史街道軸として位置付け、亀山本徳寺、荒川神社、高岳神社等の史跡など、地域に散在する歴史文化遺産を散策、回遊できる歴史・文化ネットワークの形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・駅南大路沿道では、都心部にふさわしい高度な土地利用を促進し、金融機関、事務所等の業務施設の集積を図ります。また、ＪＲ御着駅～姫路駅間及びＪＲ姫路駅～英賀保駅間での新駅の設置にあわせ、駅前にふさわしい土地利用を誘導します。
- ・国道線（国道２号）沿道の商業業務地では、広域交通の利便性を生かした沿道施設等を誘導します。

イ 工業系

- ・西延末等の既存の内陸工業地では、引き続き工業地としての土地利用を図ります。

ウ 住宅系

- ・姫路駅南西地区及び阿保地区での土地区画整理事業を推進するとともに、これらの地区では、適切な土地利用の誘導を通じて職住近接型の複合住宅地の形成を図ります。
- ・一般住宅地及び専用住宅地では、道路等の基盤整備及び適切な土地利用の誘導を通じて、良好な住環境を備えた中低層住宅地の形成を図ります。また、八丈岩山等の丘陵の麓に位置する住宅地では、自然環境と調和した低層住宅地の形成を図ります。
- ・英賀保駅周辺土地区画整理事業を推進し、都市施設が整った低層住宅地の形成を図ります。

エ 保全系

- ・八丈岩山や蛤山等の市街地に近接する独立丘陵は、良好な都市環境や都市景観の形成はもとより、歴史的にも重要な緑として保全を図ります。

③ 都市施設

ア 交通施設

ア) 公共交通

- ・姫路駅周辺においては、南駅前広場の再整備、駐車場や駐輪場の適正配置等による交通結節機能の強化を図ります。
- ・駅間距離の長いＪＲ山陽本線の御着駅～姫路駅間及び姫路駅～英賀保駅間において新駅の設置を促進し、鉄道へのアクセス性の向上を図ります。また、新駅の設置にあわせて、駅前広場やアクセス道路の整備を推進します。
- ・書写付近～姫路駅間の路線バスについては、バス優先レーンの設置や公共車両優先システムの導入等により定時性、速達性を高めます。また、運行本数の多いバス路線の停留所付近にサイクルアンドライド用駐輪場を整備し、利便性の向上を図ります。

イ) 道路

- ・内環状道路、中環状道路（国道２号線、城北線、大日線、中央南北幹線）及び外環状道路（白国線、夢前川左岸線など）等を骨格とした幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。
- ・ＪＲ姫路駅を中心とする南北交通の円滑化と南北市街地の一体化を図るため、中環状道路、内環状道路、さらには内々環状道路の整備を推進します。

ウ) 自転車利用環境

- ・環境負荷の小さい交通手段等として自転車の利用を促進するため、延末線における自転車レーンの整備を推進するとともに、歩行者と自転車が共存した安全で快適に通行できる空間の確保を図ります。

イ 公園・緑地

- ・手柄山中央公園については、都心近郊にある緑とスポーツの拠点として利用環境の向

- 上を図るとともに、広域防災拠点として防災機能の向上を図ります。また、文化センターの機能移転を踏まえ、手柄山中央公園のあり方と施設の再配置の検討を行います。
- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。また、英賀保駅周辺地区や阿保地区の土地区画整理事業の進展にあわせて、身近に利用できる都市公園の整備を推進します。

ウ 下水道・河川

- ・老朽化した下水道施設の長寿命化、計画的な更新を図るとともに、英賀保駅周辺地区や阿保地区等の土地区画整理地内では、事業の進展にあわせて未整備区域の解消を図ります。
- ・都市化の進展に伴う雨水流出量の増大と集中豪雨による浸水被害の軽減を図るため、大井川の改修促進とあわせて、計画的な浸水対策を進めます。また、都市計画施設である船場川の改修を促進します。

エ その他

- ・施設の老朽化が進んでいる中央卸売市場については、適地への移転又は建替え等を推進し、流通施設の整備拡充等による生鮮食料品の安定供給を図ります。

④ 防災

- ・手柄山中央公園については、都心近郊にある緑とスポーツの拠点として利用環境の向上を図るとともに、広域防災拠点として防災機能の向上を図ります。
- ・防災中枢拠点として姫路市防災センターと市役所を、地域防災拠点として高丘中学校、安室中学校、運河公園を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・市街地における面的な不燃化、難燃化を促進するため、防火地域・準防火地域制度の活用を図ります。
- ・延焼の防止に効果のある主要な道路、河川等の整備や緑地の保全、宅地の生垣化を促進します。

⑤ 景観

- ・J R 姫路駅や市役所周辺、都市景観形成地区である駅南大路沿道を中心に、姫路の南玄関にふさわしい緑豊かな都市空間の創出を図ります。また、駅南大路沿道の商業・業務施設、運河公園、飾磨街道沿いの歴史文化遺産など、様々な資源が連続、連携した魅力的な都市軸の形成を図ります。



凡		例		
土 地 利 用		都 市 施 設		
 拠点商業業務地	 一般住宅地	 自動車専用道路	 補助幹線道路	 主要公園・緑地・墓園
 商業業務地	 専用住宅地	 幹線道路（環状）	 歴史街道軸	 一級・二級河川
 工業地	 農地・集落地	 幹線道路（放射）	 J R 線	 水辺
 複合住宅地	 山地・丘陵	 幹線道路（その他）	 山陽電鉄	 自転車レーン等整備路線

■ 中部第二ブロックの将来像

4 網干ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

網干ブロックは、大津茂・網干・旭陽・勝原・余部・網干西校区からなる地域です。

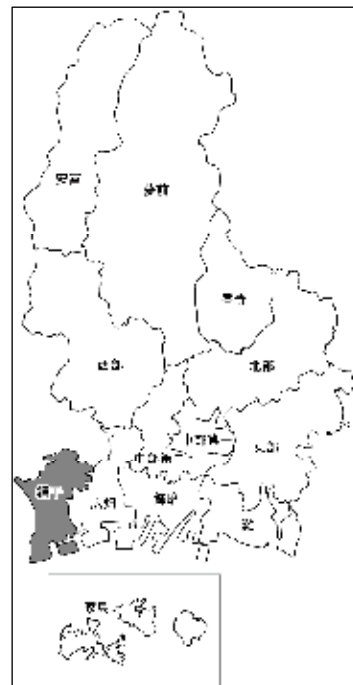
本地域は、海側の臨海産業地域と内陸側の市街地地域に大きく区分されます。地域中央部には農業振興地域が指定され、豊かな農地が広がっています。

網干は播磨風土記にも登場する長い歴史を持つまちで、また、中世から近世にかけては、揖保川、瀬戸内海という恵まれた水運による物流の拠点として栄えてきました。

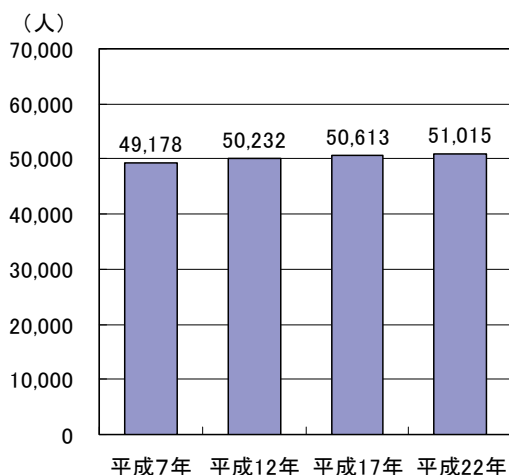
明治から昭和初期にかけては龍野電気鉄道（播州水力電気鉄道）が網干港駅を起点に地域の南北を通っていましたが、現在は、地域を東西に結ぶ山陽電鉄網干線やJ R山陽本線が通っています。

揖保川やその河口に広がる海辺の景観、朝日山等の豊かな自然環境に加え、伝統的な町家が残る興浜界隈の町並みや大覚寺、異人館等の文化財、「津の宮の提灯祭り」で知られる魚吹八幡神社など、これらの自然環境や歴史文化遺産は地域の魅力となっています。

平成20年3月には勝原区熊見でJ Rはりま勝原駅が開業し、周辺の大津区大津町では、広大な企業社宅跡地において段階的な市街地整備が進められています。

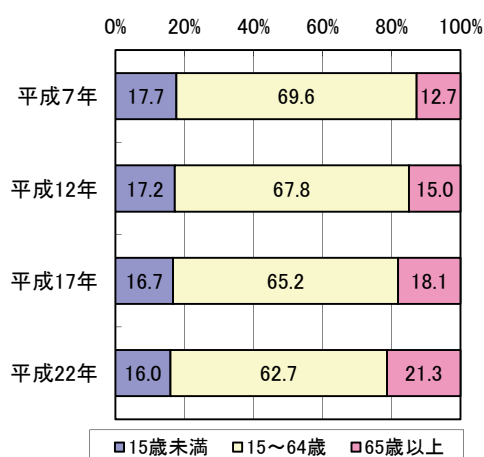


■ 人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

② 地域づくりのテーマ

海辺の景観と駅前の顔を持つ生活都市

③ 地域づくりの目標

◇ 利便性の高い魅力的な駅前の拠点づくり

山陽網干駅やＪＲ網干駅・はりま勝原駅における駅周辺開発等を促進し、利便性の高い魅力的な駅前拠点の形成を目指します。

◇ 海辺のまちなみや田園環境と調和した生活環境づくり

水運による物流の拠点であった歴史を伝えるまちなみ、津の宮の提灯祭りなど地域固有の伝統、文化を育みながら、市街地内に残る田園環境と調和した生活環境の創出を目指します。

◇ 快適で安心して暮らせる住宅市街地づくり

歩行者のための安全な道路空間の確保や身近な自然とふれあえる緑豊かな都市空間の創出など、都市施設が整い快適で安心して暮らせる住宅市街地の形成を目指します。



山陽網干駅と市立図書館



地区計画による緑豊かなまちづくり（あやみの）

（２）地域づくりの方針

① 拠点等

ア 副核（西部副核）

- ・山陽網干駅周辺地区を位置付けます。
- ・商業機能の維持、充実と交通結節機能の向上を図り、西部副核にふさわしい行政機能、商業・文化・住機能を備えた拠点の形成を図ります。

イ 地域核

- ・ＪＲ網干駅周辺地区を位置付けます。
- ・駅北側における土地区画整理事業を推進し、市西部の玄関口として、交通結節機能の強化と土地の高度利用による商業機能等の充実を図り、地域住民の日常生活における利便性を高めていきます。

ウ 歴史街道軸

- ・本地域には、興浜界限の歴史的な町並みや文化財など様々な歴史文化遺産があります。浜街道や室津道の古道を歴史街道軸として位置付け、街道沿いの歴史的町並みを保全するとともに、地域に散在する歴史文化遺産を散策、回遊できる歴史・文化ネットワークの形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・山陽網干駅周辺を拠点商業業務地、ＪＲ網干駅・はりま勝原駅周辺を商業業務地とし、公共交通の利便性等にも配慮しながら、商業施設や生活利便施設を誘導します。

イ 工業系

- ・余部区下余部等の既存の内陸工業地では、引き続き工業地としての土地利用を図ります。
- ・臨海工業地は、日本有数の化学系企業が集積する地域であり、今後も都市活力の源となる工業地の維持発展を図るとともに、快適な生活環境を支えるための供給処理施設用地等として利用を図ります。また、姫路港浜田地区では、遊休化した水面貯木場の埋立てを促進し、新規企業立地等のための産業用地として位置付けます。
- ・生活環境影響調査を実施し、周辺の住環境への影響や道路交通への影響等について支障がないと認められる廃棄物処理施設等については、その土地利用を図ります。

ウ 住宅系

- ・網干区福井や網干区大江島の複合住宅地では、地場産業の育成と軽工業あるいは商業施設等との調和のとれた住宅地の形成を図ります。
- ・一般住宅地では、適切な道路等の整備及び土地利用の誘導を通じて、良好な住環境を備えた中低層住宅地の形成を図ります。

- ・低層住宅を中心としながら、朝日山等の丘陵や田園環境と調和した緑豊かな専用住宅地の形成を図ります。また、垣内津市場地区での土地区画整理事業を推進し、都市施設が整った中低層住宅地の形成を図ります。

エ 保全系

- ・朝日山等の市街地に近接する独立丘陵は、良好な都市環境や都市景観の形成はもとより、歴史的にも重要な緑として保全を図ります。
- ・地域中央部に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備や集落の環境整備を図りつつ、市街地内の貴重な空間として保全、活用します。

③ 都市施設

ア 交通

ア) 公共交通

- ・J R 網干駅については、土地区画整理事業にあわせて、駅北側で駅前広場の整備等を推進し、公共交通への乗換えや乗継ぎの利便性を高めるとともに、バリアフリー化を促進します。
- ・山陽電鉄網干線については、現状のサービス水準の維持を図るため、沿線住民とともに活性化に取り組みます。

イ) 道路

- ・播磨地域におけるものづくり力の強化や防災・減災機能の強化、広域交流の円滑化を図るため、播磨臨海地域道路網の早期実現を促進します。
- ・放射道路を構成する海岸線（国道250号）並びに龍野線、広畑幹線及び宮田線等からなる幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。

ウ) 自転車利用環境

- ・環境負荷の小さい交通手段等として自転車の利用を促進するため、山崎線における自転車レーンの整備を推進するなど、歩行者と自転車が共存した安全で快適に通行できる空間の確保を図ります。

イ 公園・緑地

- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。また、垣内津市場土地区画整理事業の進展にあわせて、身近に利用できる都市公園の整備を推進します。

ウ 下水道・河川

- ・福井前処理場など老朽化した下水道施設の長寿命化、計画的な更新を図ります。
- ・都市化の進展に伴う雨水流出量の増大と集中豪雨による浸水被害の軽減を図るため、

計画的な雨水排水施設等の整備を図ります。

- ・平成25年7月に策定された「揖保川水系河川整備計画」に基づき、整備費用と得られる効果、影響を考慮した計画的な整備を促進します。

エ その他

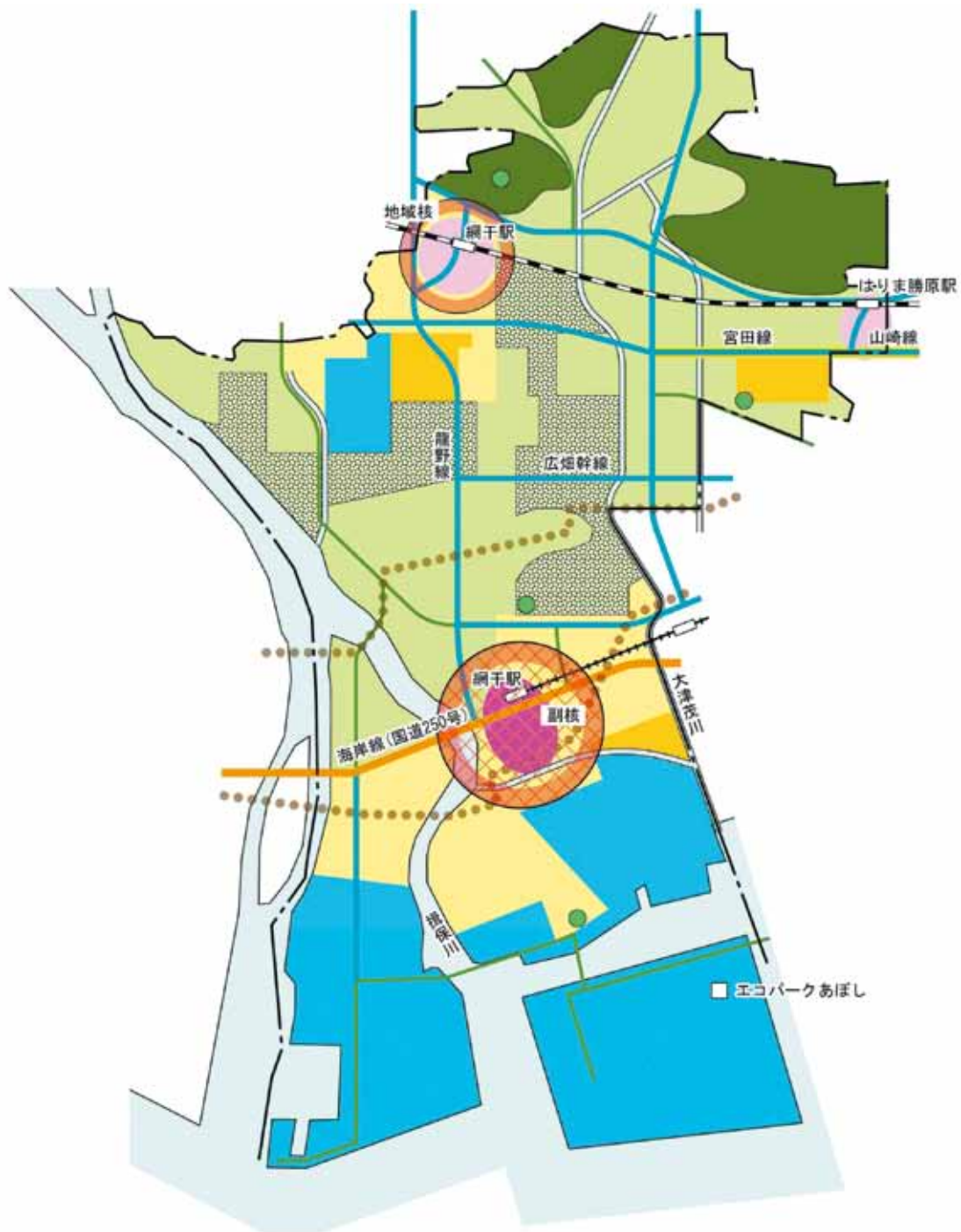
- ・ごみ焼却の余熱を利用して市民の健康づくりをサポートする「網干健康増進センター『リフレ・チョーサ』」及び楽しみながら地球問題やごみ問題を学べる「網干環境学習センター」を併設するエコパークあぼしの効果的な利用増進を図ります。

④ 防災

- ・地域防災拠点として網干支所、朝日中学校、網干南公園、大津団地第二公園を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・避難対象地区では、南海トラフ地震が発生した場合に津波による浸水被害が想定されるため、地域住民等が参画した津波避難計画を策定するとともに、津波避難計画に基づく避難場所や避難路の確保を図ります。
- ・津波接近時の安全対策として、災害時要援護者や救助活動に従事する者等が緊急的に一時避難するための津波避難ビルの確保を推進します。

⑤ 景観

- ・浜街道が通る興浜界限の歴史的町並みを、歴史的町並み景観形成ゾーンとして位置付け、港町の歴史的景観の保全、継承を図ります。
- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。
- ・地域北端の朝日山については、豊かな自然や歴史等を生かしながら、より魅力的で親しまれる空間となるよう適切な維持管理と利用環境の向上を図ります。



凡		例		
土 地 利 用		都 市 施 設		
 拠点商業業務地	 一般住宅地	 自動車専用道路	 補助幹線道路	 主要公園・緑地・墓園
 商業業務地	 専用住宅地	 幹線道路（環状）	 歴史街道軸	 一級・二級河川
 工業地	 農地・集落地	 幹線道路（放射）	 J R 線	 水辺
 複合住宅地	 山地・丘陵	 幹線道路（その他）	 山陽電鉄	 自転車レーン等整備路線

■ 網干ブロックの将来像

5 広畑ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

広畑ブロックは、広畑・広畑第二・八幡・大津・南大津校区からなる地域です。

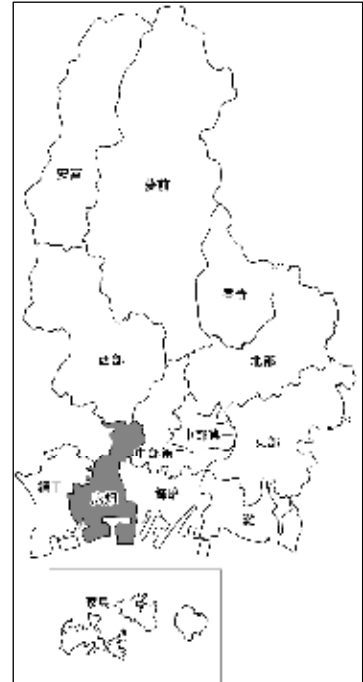
本地域は、昭和初期に建設された製鉄所と共に発展してきた街で、東西に設けられた緩衝緑地により、海側の臨海産業地域と内陸側の市街地地域に大きく区分されます。

製鉄所の操業に伴い市街化が進み、おおむね土地区画整理事業と連動した住宅地が形成されてきました。

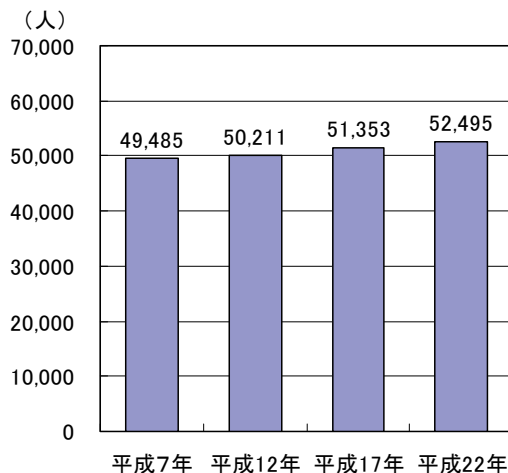
市街地地域の大部分で土地区画整理事業が完了していることから、道路等の都市施設が整った市街地が形成されています。しかし近年では、社会経済情勢の変化により企業関連の土地利用転換や更新が行われています。

臨海部では、「ひょうごエコタウン構想」の主要事業である廃タイヤガス化施設が整備されるなど、循環型社会の構築を先導するモデル地域として発展してきました。

また、近年においては、三次救急医療を担う製鉄記念広畑病院姫路救命救急センターが開設され、救急医療体制の充実が図られています。

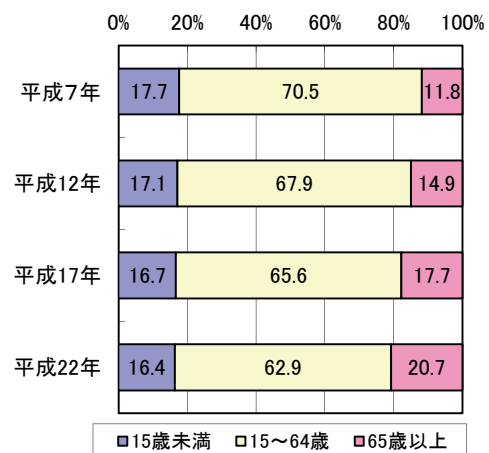


■ 人口の推移



資料:国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料:国勢調査

② 地域づくりのテーマ

新しい魅力をつくる生活都市

③ 地域づくりの目標

◇ 循環型社会を先導する産業空間づくり

広畑の発展を支えてきた既存の産業基盤・物流基盤を最大限に活用しながら、循環型社会の構築を先導する産業の振興を目指します。

◇ 新しい魅力を備えた生活環境づくり

道路、公園等の都市施設の整備に加え、住宅、商業、行政、文化、医療、福祉等の多様な用途が集積し、より身近なところで日常生活が出来るような、新しい魅力を備えた生活環境の創出を目指します。

◇ 快適で安心して暮らせる住宅市街地づくり

歩行者のための安全な道路空間の確保や身近な自然とふれあえる緑豊かな都市空間の創出など、都市施設が整い快適で安心して暮らせる住宅市街地の形成を目指します。



製鉄記念広畑病院姫路救命救急センター



夢前川の川まつり

(2) 地域づくりの方針

① 拠点等

ア 地域核

- ・山陽広畑駅周辺地区を位置付けます。
- ・地域の拠点として、商業・業務機能の充実を図るとともに、行政・文化・医療・福祉施設等の集積と有機的な連携を図ります。

イ 歴史街道軸

- ・本地域を通る浜街道や室津道の古道を歴史街道軸として位置付け、街道沿いを中心に散在する歴史文化遺産を保存、活用するとともに、住民が快適な環境の中を安全に歩き、日々の生活にゆとりを感じることができる歩行者軸の形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・山陽夢前川駅・広畑駅・天満駅・平松駅周辺を商業業務地とし、公共交通の利便性等にも配慮しながら、商業施設や生活利便施設を誘導します。

イ 工業系

- ・緩衝緑地以南の臨海工業地では、姫路港広畑地区において、環境・リサイクル産業の集積を図ります。
- ・生活環境影響調査を実施し、周辺の住環境への影響や道路交通への影響等について支障がないと認められる廃棄物処理施設等については、その土地利用を図ります。

ウ 住宅系

- ・商業地及びその周辺の複合住宅地では、鉄道駅周辺の利便性を生かした中高層住宅地の形成を図ります。
- ・中低層住宅地として良好な住環境を備えた専用住宅地の形成を図るとともに、京見山等の丘陵の麓に位置する住宅地では、自然環境と調和した緑豊かな低層住宅地の形成を図ります。
- ・山陽電鉄の南側の複合住宅地では、適切な土地利用を通じて良好な市街地の形成を図ります。

エ 保全系

- ・京見山等の市街地を取り囲む丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。

③ 都市施設

ア 交通

ア) 公共交通

- ・山陽広畑駅については、外環状道路を中心とした環状バスの段階的な導入を踏まえて、駅舎の近代化や駅前広場の整備等を検討します。
- ・山陽電鉄網干線については、現状のサービス水準の維持を図るため、沿線住民とともに活性化に取り組みます。

イ) 道路

- ・播磨地域におけるものづくり力の強化や防災・減災機能の強化、広域交流の円滑化を図るため、播磨臨海地域道路網の早期実現を促進します。
- ・環状放射道路を構成する夢前川右岸線、国道2号線（姫路バイパス）及び海岸線（国道250号）並びに広畑幹線等からなる幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。

ウ) 自転車利用環境

- ・環境負荷の小さい交通手段等として自転車の利用を促進するため、山崎線における自転車レーンの整備を推進するなど、歩行者と自転車が共存した安全で快適に通行できる空間の確保を図ります。

イ 公園・緑地

- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。また、身近に利用できる都市公園の整備を推進します。

ウ 下水道・河川

- ・都市化の進展に伴う雨水流出量の増大と集中豪雨による浸水被害の軽減を図るため、計画的な雨水排水施設等の整備を図ります。
- ・二級河川である夢前川については、河川整備計画等に基づき、計画的な河川改修や適切な維持管理を促進します。

④ 防災

- ・地域防災拠点として広畑支所、広畑中学校を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・避難対象地区では、南海トラフ地震が発生した場合に津波による浸水被害が想定されるため、地域住民等が参画した津波避難計画を策定するとともに、津波避難計画に基づく避難場所や避難路の確保を図ります。
- ・津波接近時の安全対策として、災害時要援護者や救助活動に従事する者等が緊急的に

一時避難するための津波避難ビルの確保を推進します。

- ・ 広畑区本町周辺においては、老朽化した木造家屋が密集し、地震発生時の建物倒壊や延焼危険度が高いため、都市計画道路の整備や生活道路の拡幅とともに、地域住民との連携により建築物の建替え、耐震・不燃化を促進するなど、安全な市街地環境への改善を図ります。

⑤ 景観

- ・ さくらの名所ともなっている夢前川については、桜並木の保全や水辺環境の適切な維持管理により、魅力ある都市景観の形成を図るとともに、サイクリングロードや散策路、川まつりの場等として活用を図ります。
- ・ 景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。



凡		例		
土 地 利 用		都 市 施 設		
 拠点商業業務地	 一般住宅地	 自動車専用道路	 補助幹線道路	 主要公園・緑地・墓園
 商業業務地	 専用住宅地	 幹線道路（環状）	 歴史街道軸	 一級・二級河川
 工業地	 農地・集落地	 幹線道路（放射）	 J R 線	 水辺
 複合住宅地	 山地・丘陵	 幹線道路（その他）	 山陽電鉄	 自転車レーン等整備路線

■ 広畑ブロックの将来像

6 飾磨ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

飾磨ブロックは、飾磨・津田・英賀保・高浜・妻鹿校区からなる地域です。

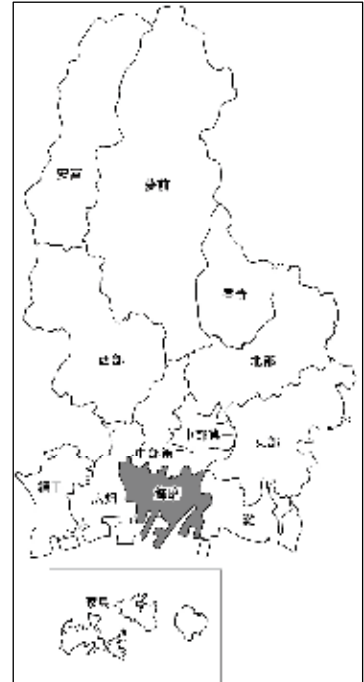
網干から大塩へと繋がる臨海都市街地の東西軸と、野里から姫路駅前を経て飾磨港へと至る都市軸である南北軸の結節点に位置しています。

本地域は、東西に設けられた緩衝緑地により大きく区分され、海側は鉄鋼を中心とした臨海産業地域、内陸側は市街地地域となっています。

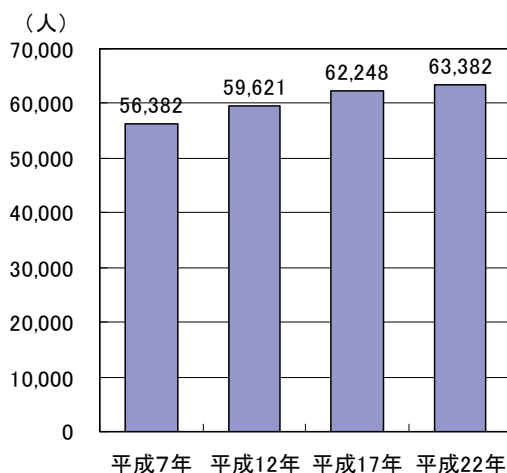
市街地地域では、浜街道沿いに点在する旧集落を中心に、住・商・工が近接した職住複合の市街地が形成され、その周辺部では、おおむね土地区画整理事業と連動した住宅地が形成されてきました。

野田川の河口に開けた旧飾磨港（姫路港飾磨地区）は、かつて飾磨津と呼ばれ、江戸時代は姫路城下の外港として重要な位置を占めていました。また、明治初期の産業道路であった銀の馬車道の発着点でもありました。

戦後の工業化とあわせた港湾施設の整備により、物流機能の強化が進んでいます。また、旅客船ターミナルや家島群島及び小豆島を結ぶ定期船があり、本地域は「海の玄関口」としての役割を果たしています。

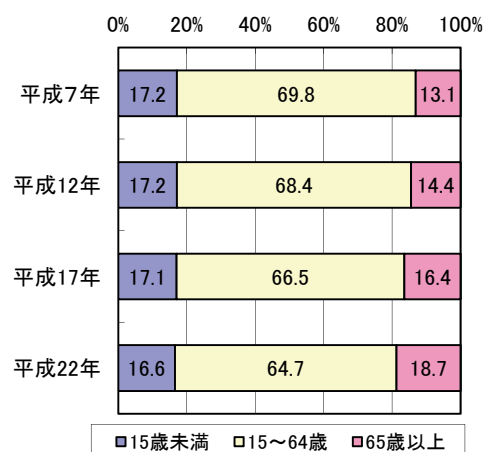


■ 人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

② 地域づくりのテーマ

住・商・工が調和した住みよい親港都市

③ 地域づくりの目標

◇ 歴史的な魅力を備えた生活環境づくり

歴史的な港まちとしての側面と、古くから人口の集積と道路等の都市施設が整い、住・商・工のバランスがとれた生活密着型のまちとしての側面を融合し、歴史的な魅力を備え、より身近なところで日常生活が出来るような生活環境の創出を目指します。

◇ 海の玄関口にふさわしい生活と産業が交流する南部副核づくり

姫路市の海の玄関口にふさわしい生活と産業が交流する南部副核を形成するとともに、南部副核及び親港拠点と地域内外の連携を強化する骨格道路網の形成を目指します。

◇ 快適で安心して暮らせる住宅市街地づくり

歩行者のための安全な道路空間の確保や身近な自然とふれあえる緑豊かな都市空間の創出など、都市施設が整い快適で安心して暮らせる住宅市街地の形成を目指します。



旅客船ターミナルと臨港公園（姫路港飾磨地区）



南部副核（飾磨支所）

（２）地域づくりの方針

① 拠点等

ア 副核（南部副核）

- ・山陽飾磨駅周辺地区を位置付けます。
- ・地域の拠点として、交通結節機能の向上や商業機能の充実、居住環境の改善を図るとともに、港町の歴史的景観を生かした魅力的な都市空間の保全、創出を図ります。また、主核を補完する行政機能、商業・業務機能、市民活動の場を備えた拠点の形成を図ります。

（交通環境の改善）

- ・山陽飾磨駅周辺地区では、踏切での慢性的な交通渋滞が発生し、地域住民の生活や交流活動、経済活動等に支障をきたしているため、幹線道路（飾磨幹線、鹿谷田線）等の整備による交通環境の改善を図ります。

イ 親港拠点

- ・姫路港飾磨地区を位置付けます。
- ・地域の資源を生かした観光・交流ネットワークの形成を図るため、ポートセールスの取組強化等を促進します。

ウ 歴史街道軸

- ・本地域には、城趾等の遺跡・史跡、港町の情趣ある町並みなど多様な歴史文化遺産があります。浜街道や飾磨街道等の古道を歴史街道軸として位置付け、街道沿いの歴史的町並みを保全するとともに、地域に散在する歴史文化遺産を散策、回遊できる歴史・文化ネットワークの形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・山陽飾磨駅周辺を拠点商業業務地、ＪＲ英賀保駅、山陽妻鹿駅・西飾磨駅周辺を商業業務地として位置付けます。公共交通の利便性等にも配慮しながら、商業施設や生活利便施設を誘導します。また、都市軸を形成する飾磨幹線についても、沿道型の商業業務地として位置付けます。

イ 工業系

- ・緩衝緑地以南の臨海部では、都市活力の源となる工業地の形成を図ります。大規模事業所跡地は既存工場等の移転用地や新たな企業立地のための産業用地として位置付けます。
- ・生活環境影響調査を実施し、周辺の住環境への影響や道路交通への影響等について支障がないと認められる廃棄物処理施設等については、その土地利用を図ります。

ウ 住宅系

- ・海岸線（国道250号）沿道や地域中央を南北に連絡する宮線沿道等の複合住宅地では、住・商・工をともに許容した土地利用を図ります。
- ・一般住宅地では、適切な土地利用の誘導を通じて良好な市街地の形成を図ります。
- ・J R 英賀保駅周辺地区土地地区画整理事業を推進し、都市施設が整った低層住宅地の形成を図ります。

エ 保全系

- ・甲山等の市街地に近接する丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。

③ 都市施設

ア 交通施設

ア) 公共交通

- ・山陽飾磨駅では、駅北側の駅前広場から改札口が利用しにくく、バスや自家用車等からの乗換え利便性が低いといった利用上の課題に対して、改善策を検討します。また、姫路港と山陽飾磨駅とを公共交通で連絡し、アクセス性の向上を図ります。
- ・山陽妻鹿駅における駅前広場の整備に引き続き、交通結節機能の強化を図ります。
- ・英賀保駅南北の移動円滑化及び北側からの利用環境改善を目的として駅の橋上化を促進します。

イ) 道路

- ・播磨地域におけるものづくり力の強化や防災・減災機能の強化、広域交流の円滑化を図るため、播磨臨海地域道路網の早期実現を促進します。
- ・外環状道路を構成する海岸線（国道250号）並びに大日線及び中央南北幹線等を骨格とした幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。
- ・J R 英賀保駅周辺のバリアフリー化を推進します。

イ 公園・緑地

- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。また、英賀保駅周辺地区土地地区画整理事業の進展にあわせて、身近に利用できる都市公園の整備を推進します。

ウ 下水道・河川

- ・中部処理場など老朽化した下水道施設の長寿命化、計画的な更新を図るとともに、英賀保駅周辺地区の土地地区画整理地内では、事業の進展にあわせて未整備区域の解消を図ります。

- ・二級河川である市川、船場川、水尾川、夢前川、野田川については、河川整備計画等に基づき、計画的な河川改修や適切な維持管理を促進します。

④ 防災

- ・地域防災拠点として飾磨支所、高浜総合公園、飾磨中部中学校、津田公園を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・避難対象地区では、南海トラフ地震が発生した場合に津波による浸水被害が想定されるため、地域住民等が参画した津波避難計画を策定するとともに、津波避難計画に基づく避難場所や避難路の確保を図ります。
- ・飾磨区御幸周辺及び飾磨区大浜周辺においては、老朽化した木造家屋が密集し、地震発生時の建物倒壊や延焼危険度が高いため、生活道路の拡幅とともに、地域住民との連携により建築物の建替え、耐震・不燃化を促進するなど、安全な市街地環境への改善を図ります。
- ・津波接近時の安全対策として、災害時要援護者や救助活動に従事する者等が緊急的に一時避難するための津波避難ビルの確保を推進します。

⑤ 景観

- ・山陽飾磨駅以南に残る歴史的町並みを、歴史的町並み景観形成ゾーンとして位置付け、港町等の歴史的景観の保全、継承を図ります。
- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。



凡		例		
土地利 用		都 市 施 設		
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路	主要公園・緑地・墓園
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸	一級・二級河川
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R 線	水辺
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄	自転車レーン等整備路線

■ 飾磨ブロックの将来像

7 灘ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

灘ブロックは、白浜・八木・糸引・的形・大塩校区からなる地域です。

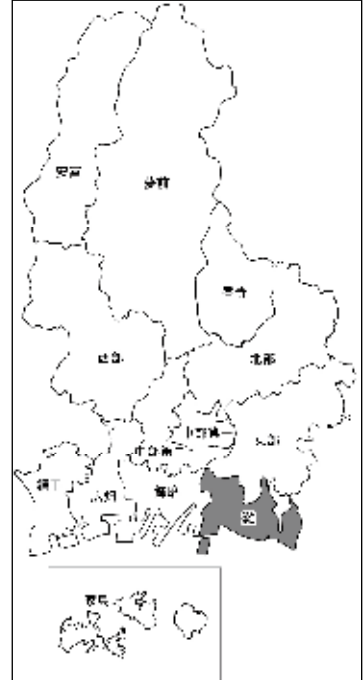
本市の臨海部のほとんどは、播磨臨海工業地帯を形成するために埋め立てられましたが、本地域には唯一、埋め立てられずに自然海岸が残っています。

また、内陸側の市街地地域は、高坪山の山並みにより西側の灘地区と東側の大的地区に大きく区分され、灘地区の海側は臨海産業地域になっています。

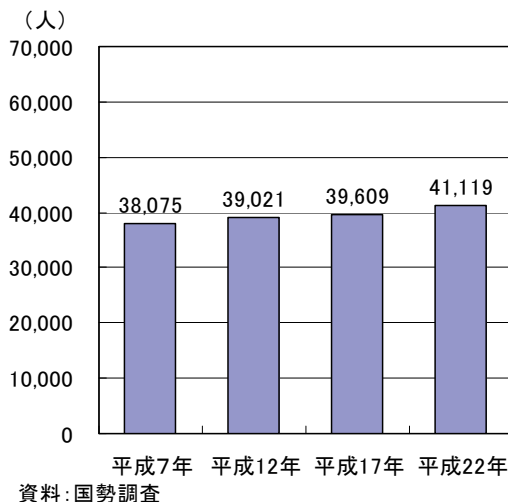
古くから海との関係が深い地域であり、奈良時代の僧行基が開いたとされる摂播五泊（摂津から播磨にかけての五つの湊）のひとつ「韓泊」は、現在の的形辺りと伝えられています。また、白浜から大塩にかけての臨海部は、播磨で最初に製塩が行われた地域として昭和46年の廃田まで製塩が続けられました。

灘地区は早くから地場産業が発展した地域でもあり、江戸中期の和釘の製造が始まりとされています。現在でも鎖・ナット製造等の地場産業が行われる職住近接の複合住宅地が形成され、臨海部では塩田廃止後の土地区画整理事業により工業団地が造成されています。

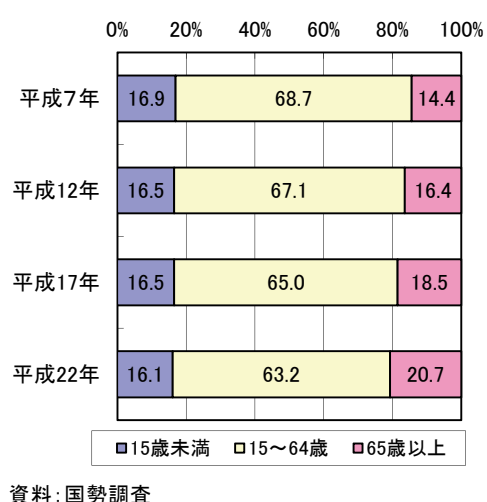
旧灘七か村の総鎮守である松原八幡神社の秋の例大祭は「灘のけんか祭」として海外にも名を知られ、大塩天満宮の「獅子舞」等を含め、本地域は伝統に育まれたコミュニティが連綿と引き継がれた地域といえます。



■ 人口の推移



■ 年齢3区分別人口の推移



② 地域づくりのテーマ

地場産業とまつりに育まれた海洋文化都市

③ 地域づくりの目標

◇ **高規格な幹線道路網の整備を契機とした交通ネットワークづくり**

播磨臨海地域道路網、海岸線（国道 250 号）等の東西幹線道路を中心とした物流の効率化、災害時の緊急輸送や広域緊急医療の充実等に資する交通ネットワークの形成を目指します。

◇ **地場産業に育まれた伝統ある複合住宅地づくり**

地場産業による職住近接の生活像と地域固有の伝統、文化に育まれ、熟成されたコミュニティを後世へと引き継ぐため、伝統ある複合住宅地の形成を目指します。

◇ **快適で安心して暮らせる住宅市街地づくり**

歩行者のための安全な道路空間の確保や身近な自然とふれあえる緑豊かな都市空間の創出など、都市施設が整い快適で安心して暮らせる住宅市街地の形成を目指します。



灘のけんか祭



自然海岸（小赤壁）

(2) 地域づくりの方針

① 拠点等

ア 地域核

- ・山陽白浜の宮駅周辺地区を位置付けます。
- ・地域の拠点として、交通結節機能の向上を図るとともに、商業施設や行政施設の集積を図り、地域住民の日常生活における利便性を高めていきます。

イ 塩田跡地ゾーン

- ・塩田跡地の利用については、広大な土地を生かして民間による太陽光発電が進められていますが、今後は、播磨臨海地域道路網や鉄道施設の移転の進捗状況等を踏まえ、地域特性にも配慮した土地利用を誘導します。

ウ 歴史街道軸

- ・本地域には、かつての海岸付近の旧集落を縫うかたちで東西に繋がる浜街道が通っています。この古道を歴史街道軸として位置付け、街道沿いを中心に散在する歴史文化遺産を保存、活用し、地域の魅力と活力の向上を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・山陽大塩駅・的形駅・白浜の宮駅周辺を商業業務地とし、公共交通の利便性等にも配慮しながら、商業施設や生活利便施設を誘導します。

イ 工業系

- ・八家川より西側の海岸線（国道250号）以南の臨海部では、引き続き工業地としての土地利用を図ります。また、それらは内陸部での地場産業の集積地としての機能をあわせ持ちます。
- ・生活環境影響調査を実施し、周辺の住環境への影響や道路交通への影響等について支障がないと認められる廃棄物処理施設等については、その土地利用を図ります。
- ・妻鹿漁港においては、引き続き水産物の生産・流通・加工施設等の集積を図るとともに、海産物直売など地域住民との交流を促進します。

ウ 住宅系

- ・山陽電鉄と海岸線（国道250号）に挟まれた複合住宅地では、地場産業に培われてきたコミュニティを大切にしながら、住宅と工場が共存した職住近接型の住宅地を育成します。
- ・一般住宅地及び専用住宅地では、適切な道路等の整備及び土地利用の誘導を通じて、良好な住環境を備えた中低層住宅地又は低層住宅地の形成を図ります。

エ 保全系

- ・小赤壁等の自然海岸及び高坪山や仁寿山等の市街地を取り囲む丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。

③ 都市施設**ア 交通****ア) 公共交通**

- ・鉄道駅の利便性の向上を図るため、山陽白浜の宮駅については、駅前広場の整備を推進します。
- ・高等教育機関のスクールバスが発着している山陽大塩駅についても駅前広場やホームの改善等を検討し、公共交通の乗換えや乗継ぎの利便性を高めます。

イ) 道路

- ・播磨地域におけるものづくり力の強化や防災・減災機能の強化、広域交流の円滑化を図るため、播磨臨海地域道路網の早期実現を促進します。
- ・環状放射道路を構成する海岸線（国道250号）や御着線を骨格とした幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。
- ・山陽白浜の宮駅など高齢者、障がい者等が日常的によく利用する施設のバリアフリー化とあわせて、周辺道路の改良を図ります。

イ 公園・緑地

- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。
- ・市民のスポーツに関するニーズが高まる中、今後策定されるスポーツ推進計画とも整合を図りながら、必要に応じスポーツ需要を満たす広場の整備を図ります。

ウ 下水道・河川

- ・大塩処理場、東部処理場など老朽化した下水道施設の長寿命化、計画的な更新を図ります。
- ・都市化の進展に伴う雨水流出量の増大と集中豪雨による洪水被害の軽減を図るため、二級河川である八家川の河川改修を促進します。

④ 防災

- ・地域防災拠点として白浜支所、灘中学校、大的中学校を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・避難対象地区では、南海トラフ地震が発生した場合に津波による浸水被害が想定されるため、地域住民等が参画した津波避難計画を策定するとともに、津波避難計画に基づく避難場所や避難路の確保を図ります。

- ・津波接近時の安全対策として、災害時要援護者や救助活動に従事する者等が緊急的に一時避難するための津波避難ビルの確保を推進します。

⑤ 景観

- ・浜街道沿いの歴史的遺産を保全するとともに、奇石巨岩が至る所に姿を見せ、絶景の自然美をもつ景勝地である小赤壁等の自然海岸、御旅山については、豊かな自然環境と美しい眺望景観を保全しつつ、自然観察や散策、休息等の諸活動が行える場として活用を図ります。
- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。



凡		例	
土 地 利 用		都 市 施 設	
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R 線
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄
			主要公園・緑地・墓園
			一級・二級河川
			水辺

■ 灘ブロックの将来像

8 東部ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

東部ブロックは、花田・四郷・御国野・別所・谷外・谷内校区からなる地域です。

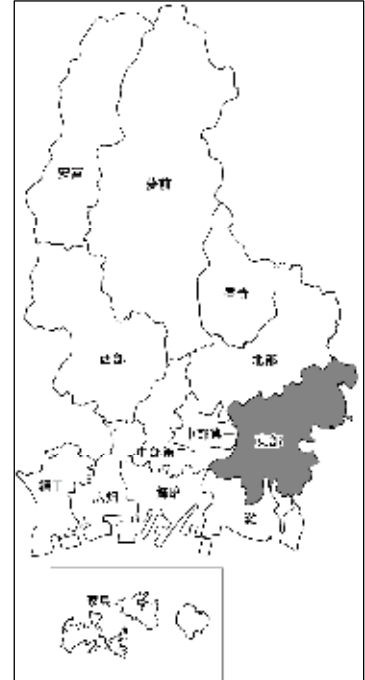
市川を挟み中心市街地と隣接する位置にあり、姫路市街地の外郭をなす緑の山並みに接するとともに、農業振興地域の指定がある豊かな農用地など、水と緑豊かな住宅地を形成しています。

地域は大きく分けて市川左岸から国道線（国道2号）沿いにかけての市街地地域、巡礼街道に沿った北側谷筋の丘陵・田園地域に大きく区分されます。

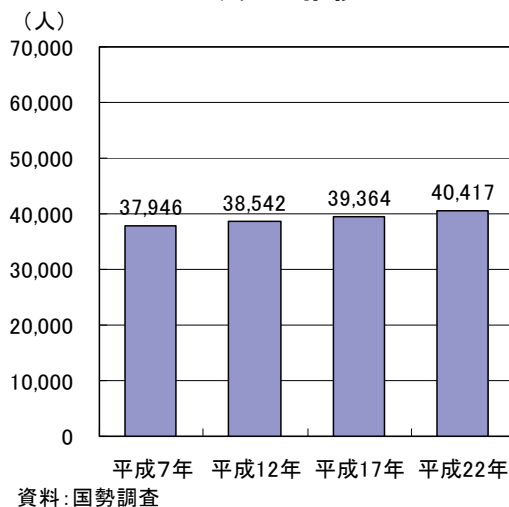
奈良時代には播磨国分寺が置かれ、室町時代の御着城跡や古墳時代の壇場山古墳群など史跡も多く、播磨の政治、文化の中心地として古くから栄えた地域といえます。

地域東端の別所地区では、貨物基地の移転を契機として、平成3年に着手した土地区画整理事業が完了し、平成17年にはJRひめじ別所駅が開業するなど、計画的な都市施設の整備が行われていますが、全体的には面的な市街地整備が進んでいません。一部で都市計画道路が整備されているものの、狭小道路や住工混在による住環境の改善が課題となっている地区があります。

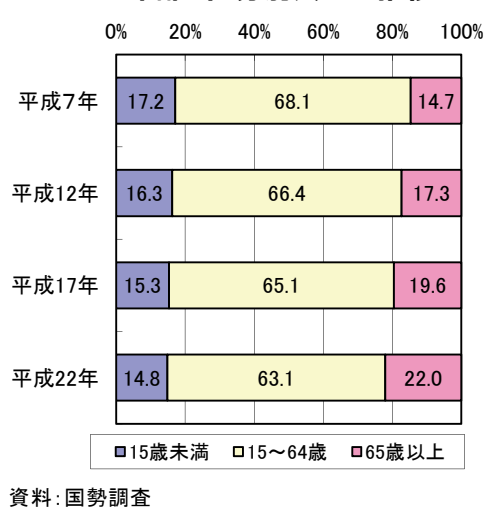
市域東部の玄関口として、山陽自動車道の姫路東インターチェンジや播但連絡道路の花田インターチェンジ等が設置されています。花田インターチェンジ周辺では、交通の利便性を生かした流通業務施設の立地がみられます。



■ 人口の推移



■ 年齢3区分別人口の推移



② 地域づくりのテーマ

風土記のさと・水と緑に囲まれた緑住都市

③ 地域づくりの目標

◇ 水と緑と歴史のネットワークづくり

市街地の外郭を縁取る山並みや農地等の自然空間と、播磨の中心地として栄えた数々の歴史文化遺産を活用し、地域活性化の仕掛けとなる水と緑と歴史のネットワークの形成を目指します。

◇ 姫路市の東玄関口にふさわしい拠点づくり

J R ひめじ別所駅における駅周辺開発等を促進し、本市の東玄関口にふさわしい拠点の形成を目指します。

◇ 緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地づくり

都心に近いにも関わらず身近に自然を感じられる地域の特性を生かし、周囲の緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地の形成を目指します。



J R ひめじ別所駅



市埋蔵文化財センター（まい姫）

（２）地域づくりの方針

① 拠点等

ア 地域核

- ・ J R 御着駅周辺地区を位置付けます。
- ・ 地域の拠点として、交通結節機能の向上を図るとともに、商業施設や行政施設の集積を図り、地域住民の日常生活における利便性を高めていきます。

イ 歴史街道軸

- ・ 西国街道や巡礼道等の古道を歴史街道軸として位置付け、歴史的町並みや史跡等の歴史文化遺産のほか、鉄道駅や学校等の施設を結ぶことにより、自然と歴史に触れることができる安全で快適な歩行者ネットワークを形成します。

② 土地利用

ア 商業系

- ・ J R ひめじ別所駅・御着駅周辺を商業業務地とし、公共交通の利便性等の向上とあわせて、商業施設や生活利便施設を誘導します。また、国道線（国道 2 号）沿道等についても、広域交通の利便性を生かした沿道型の商業業務地として位置付けます。

イ 工業系

- ・ 姫路工業団地及び周辺の内陸工業地では、引き続き工業地としての土地利用を図ります。

（インターチェンジ・ランプ周辺）

- ・ 姫路東インターチェンジ・花田インターチェンジ周辺や別所ランプ周辺において、無秩序な土地利用を整序、抑制しながら、インターチェンジ及びランプ周辺の特性を生かした流通業務施設や工業施設等の立地を適正に誘導します。

ウ 流通業務系

- ・ J R ひめじ別所駅の南側や花田インターチェンジ・別所ランプ周辺では、交通利便性を生かした流通業務系の土地利用を誘導します。

エ 住宅系

- ・ 別所地区の複合住宅地では、住機能と流通業務機能とが調和した緑豊かな住宅地の形成を図ります。また、地場産業が集積する職住近接型の複合住宅地では、工場跡地等における住宅の立地が散見されますが、引き続き工場と住宅との混在を許容する住宅地の形成を図ります。
- ・ 一般住宅地及び専用住宅地では、適切な道路等の整備及び土地利用の誘導を通じて、良好な住環境を備えた中低層住宅地又は低層住宅地の形成を図ります。

オ 保全系

- ・仁寿山等の市街地を取り囲む丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。
- ・天川及び明田川の流域に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備や集落の環境整備を図りつつ、集落景観等を創出する緑として保全、活用します。

③ 都市施設

ア 交通

ア) 公共交通

- ・J R 御着駅については、外環状道路網を中心とした環状バスの段階的な導入を踏まえて、駅前広場の整備等を検討します。また、御着駅へのアクセス道路整備や通行規制の見直しによるアクセス性の向上を目指します。

イ) 道路

- ・環状放射道路を構成する御着線、国道線（国道2号）及び城北線（国道372号）等からなる幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。

イ 公園・緑地

- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。また、身近に利用できる都市公園の整備を推進します。

ウ 下水道・河川

- ・四郷前処理場、高木前処理場など老朽化した下水道施設の長寿命化、計画的な更新を図ります。また、農業集落排水の公共下水道への統合を進め、改築更新費用及び維持管理費用の節減を図ります。
- ・二級河川である市川については、河川整備計画に基づき、氾濫時に大きな被害が予想される河口から生野橋までの区間の改修及び適切な維持管理を促進します。

④ 防災

- ・地域防災拠点として東出張所、飾東出張所、球技スポーツセンターを配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・森林、緑地の持つ保水機能等の保全と土砂災害等の防止を図ります。

⑤ 景観

- ・旧集落を東西に繋ぐ西国街道沿道の歴史的町並みを、歴史的町並み景観形成ゾーンと

して位置付け、宿場町の歴史的景観を保全、継承を図ります。

- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。
- ・ふるさと歴史の広場として整備されている播磨国分寺跡については、播磨の中心地であった歴史を偲ばせる空間として保全を図ります。



凡		例		
土 地 利 用		都 市 施 設		
 拠点商業業務地	 一般住宅地	 自動車専用道路	 補助幹線道路	 主要公園・緑地・墓園
 商業業務地	 専用住宅地	 幹線道路（環状）	 歴史街道軸	 一級・二級河川
 工業地	 農地・集落地	 幹線道路（放射）	 J R 線	 水辺
 複合住宅地	 山地・丘陵	 幹線道路（その他）	 山陽電鉄	

■ 東部ブロックの将来像

9 北部ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

北部ブロックは、城北・広峰・水上・砥堀・増位・豊富・山田・船津校区からなる地域です。

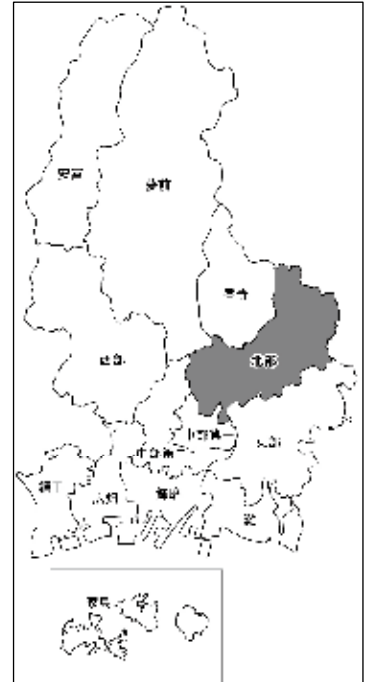
西播丘陵県立自然公園や播磨中部丘陵県立自然公園に囲まれた地域であり、ほとんどが丘陵・田園地域となっています。

地域の中央を市川が貫流し、市川西側には、J R 野里駅周辺を中心に中部ブロックから連なる市街地が形成されています。また、旧野里街道や明治初期の主要な産業道路であった馬車道が通っていた大日線（国道 312 号）沿いに市街地、集落が形成されています。市川東側の平野部には、田園風景が広がる集落が形成されています。

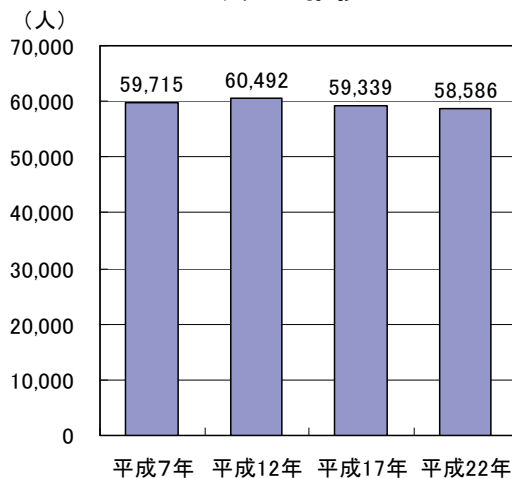
この一帯は播磨風土記に蔭山の里、多駝里と記され、古くから人々の生活が営まれてきた本地域では、古社、古寺、遺跡等の文化財が数多く点在しています。

城北公園の北側には陸上自衛隊姫路駐屯地と小・中学校が立地した街区が形成されています。

大日線（国道 312 号）と並行して J R 播但線が通り、J R 野里駅・砥堀駅・仁豊野駅が設置されています。また、市域北部の玄関口として、播但連絡道路に砥堀ランプ、豊富ランプ、船津ランプが設置され、豊富ランプ周辺では豊富団地（サバービア豊富）が整備されています。

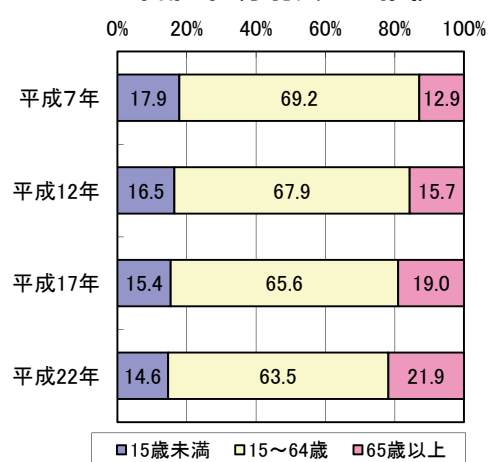


■ 人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

② 地域づくりのテーマ

歴史と自然に満ちた山麓都市

③ 地域づくりの目標

◇ 賑わいのある北部副核と地域活性化を牽引する拠点づくり

賑わいのある北部副核の形成やランプ周辺の土地利用の誘導を図り、豊かな自然に恵まれたゆとりある環境の中で、働き、住み、憩うことのできる地域づくりを目指します。

◇ 豊かな自然や田園環境を生かしたレクリエーション空間づくり

増位山や広嶺山等の豊かな自然環境、市川東側に広がる田園環境、さらには地域に点在する歴史文化遺産の保全、活用により、多様なレクリエーション空間の形成を目指します。

◇ 緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地づくり

市街地を取り囲む丘陵周辺に開発された住宅地を中心に、道路や公園等の都市施設が整い、周囲の緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地の形成を目指します。



J R野里駅と花の北市民広場



神谷ダム周辺

（２）地域づくりの方針

① 拠点等

ア 地域核（北部副核）

- ・ J R 野里駅周辺地区を位置付けます。
- ・ 地域の中心となる商業機能を維持するとともに、行政施設やコミュニティの育成に資する文化・交流施設等を確保することにより、行政機能、商業機能、市民活動の場を備えた拠点の形成を図ります。

イ 歴史街道軸

- ・ 本地域に点在する古社、古寺、遺跡等の歴史的遺産を散策、回遊できる銀の馬車道や野里街道等の古道については、豊かな自然環境の中を楽しく歩くことができ、余暇時間の快適で健康的な過ごし方に寄与できる歴史街道軸として位置付けます。

② 土地利用

ア 商業系

- ・ J R 野里駅周辺を拠点商業業務地とし、公共交通の利便性等にも配慮しながら、商業施設や生活利便施設を誘導するとともに、歩行者を中心とした沿道型の商業業務地として城東線や野里街道沿道を位置付けます。また、大日線（国道312号）についても、広域交通の利便性を生かした沿道施設を計画的に誘導していくための軸として位置付けます。

イ 工業系

- ・ 豊富団地（サバービア豊富）や豊富町豊富、J R 仁豊野駅北側等の既存の内陸工業地では、引き続き工業地としての土地利用を図ります。

（ランプ周辺）

- ・ 豊富ランプ・砥堀ランプ・船津ランプ周辺において、無秩序な土地利用を整序、抑制しながら、ランプ周辺の特性を生かした流通業務施設や工業施設等の立地を適正に誘導します。

ウ 住宅系

- ・ 市川沿いの複合住宅地及び一般住宅地では、地場産業の育成と軽工業あるいは商業施設等との調和のとれた住宅地の形成を図ります。
- ・ 専用住宅地では、中低層住宅を中心とした良好な市街地の形成を図るとともに、山麓部の開発地では、自然環境と調和した低層住宅地の形成を図ります。特に、市街化調整区域に点在する住宅団地では、地区計画制度の活用により、現在の住環境の維持、保全を図ります。

エ 保全系

- ・増位山や広嶺山等の市街地を取り囲む丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。
- ・増位山や広嶺山については、地域を代表する自然環境や増位山随願寺、広峯神社等の歴史文化遺産に触れることができる拠点として、貴重な自然環境や歴史的風土を損なわない範囲での利用環境の向上を図ります。
- ・市川東側に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備や集落地の環境整備を図りつつ、集落景観等を創出する緑として保全、活用します。

③ 都市施設

ア 交通

ア) 公共交通

- ・公共交通空白・不便地域においては、地域住民、交通事業者など多様な地域関係者と連携しながら、コミュニティバスの導入など生活交通の維持、確保に向けた取組を推進します。

イ) 道路

- ・環状放射道路を構成する大日線（国道312号）、城北線及び白国線等からなる幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。

ウ) 自転車利用環境

- ・環境負荷の小さい交通手段等として自転車の利用を促進するため、J R野里駅前で自転車レーンの整備を推進するなど、歩行者と自転車が共存した安全で快適に通行できる空間の確保を図ります。

イ 公園・緑地

- ・姫路セントラルパークについては、周囲の自然環境を保全しながら、地域住民のみならず広域圏の人々に親しまれる施設として活用します。
- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。

ウ 下水道・河川

- ・高木川西前処理場など老朽化した下水道施設の長寿命化、計画的な更新を図ります。また、農業集落排水の公共下水道への統合を進め、改築更新費用及び維持管理費の節減を図ります。
- ・二級河川である市川については、河川整備計画に基づき、氾濫時に大きな被害が予想される河口から生野橋までの区間の改修及び適切な維持管理を促進します。
- ・二級河川である船場川については、河川整備計画等に基づき、計画的な河川改修や適切な維持管理を促進します。また、流下能力向上対策として姫路競馬場において洪水

調節施設の整備を促進し、洪水被害の軽減を図ります。

④ 防災

- ・地域防災拠点として北出張所、船山出張所、城北公園、豊富球場を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・森林、緑地の持つ保水機能等の保全と土砂災害等の防止を図ります。

⑤ 景観

- ・増位山や広嶺山、神谷ダム周辺の豊かな水と緑が織りなす自然景観を保全するとともに、市街地を望む眺望点や身近に自然とふれあえる場として活用します。
- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。



■ 北部ブロックの将来像

10 西部ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

西部ブロックは、曾左・白鳥・太市・林田・伊勢・峰相・青山校区からなる地域です。

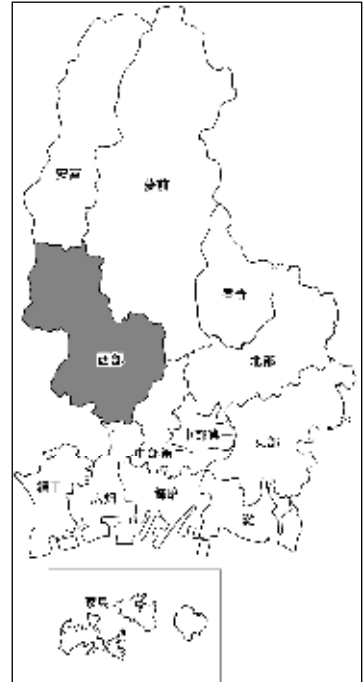
本地域は、西播丘陵県立自然公園に指定されている書写山等の山地・丘陵や、夢前川等に囲まれた丘陵・田園地域となっています。

地域内は南北に連なる丘陵でいくつかに分かれ、菅生川、大津茂川、林田川のそれぞれの流域には、田園風景の広がる市街地、集落が形成されています。

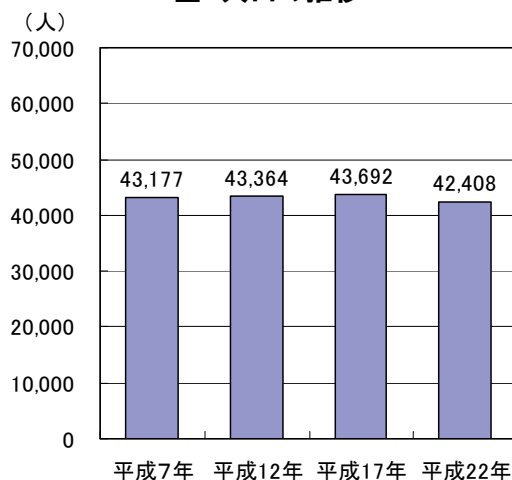
因幡街道が通る交通の要衝で林田藩の陣屋町として栄えた林田地区や、西国街道（山陽道）や因幡街道の要衝であった青山・飾西地区では、陣屋町や宿場町としての歴史的な町並みが残っています。

現在は、広域交通を受け持つ山陽自動車道や国道29号南線（姫路西バイパス）が通り、姫路西インターチェンジ等が設置されています。また、地域を南北に連絡する国道29号や、地域を東西に連絡するJR姫新線が通り、JR余部駅・太市駅が設置されています。

書写山や桜山貯水池等の豊かな自然環境、陣屋町や宿場町の歴史的な町並みに加え、書写山円教寺等の地域に点在する文化財など、これらの自然環境や歴史文化遺産が地域の魅力となっています。

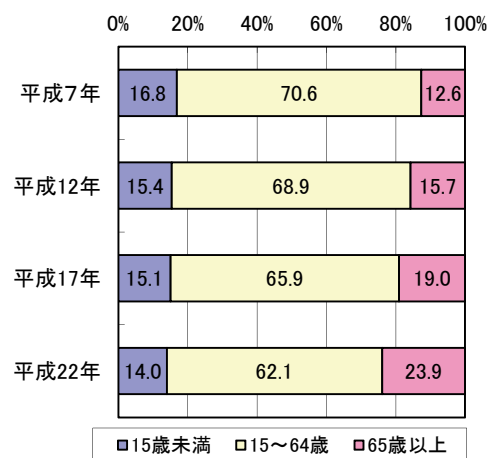


■ 人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

② 地域づくりのテーマ

豊かな自然と歴史にふれあえる緑住都市

③ 地域づくりの目標

◇ **利便性の高い交通拠点づくり**

J R余部駅・太市駅を中心として、公共交通機関の連携強化や地域の実情に応じた土地利用を誘導し、日常生活の利便性を高める交通拠点の形成を目指します。

◇ **豊かな自然や田園環境を生かしたレクリエーション空間づくり**

書写山や桜山貯水池等の豊かな自然環境、菅生川・大津茂川・林田川流域に広がる田園環境、さらには地域に点在する歴史文化遺産の保全、活用により、多様なレクリエーション空間の形成を目指します。

◇ **緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地づくり**

市街地を取り囲む丘陵周辺に開発された住宅地を中心に、道路や公園等の都市施設が整い、周囲の緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地の形成を目指します。



書写山円教寺



林田町六九谷の歴史的町並み

(2) 地域づくりの方針

① 拠点等

ア 地域核

- ・ J R 余部駅周辺地区を位置付けます。
- ・ 地域の拠点として、交通結節機能の向上を図るとともに、幹線道路の沿道地区を含めて、商業施設の充実を図り、地域住民の日常生活における利便性を高めていきます。

イ 歴史街道軸

- ・ 本地域には、書写山円教寺、林田藩陣屋跡等の史跡、林田の陣屋町や青山の宿場町など様々な歴史文化遺産があります。これらを地域資源として総合的に保存、活用していくため、西国街道や因幡街道等の古道を歴史街道軸として位置付け、街道沿いの歴史的町並みを保全するとともに、地域に散在する歴史文化遺産を散策、回遊できる歴史・文化ネットワークの形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・ J R 余部駅周辺の商業業務地では、夢前川と J R 姫新線に挟まれている地形的要因から、幹線道路沿道を含めた範囲で近隣商業施設や生活利便施設を誘導します。

イ 工業系

(インターチェンジ・ランプ周辺)

- ・ 姫路西インターチェンジ周辺や太市・相野出屋敷・下伊勢ランプ周辺において、無秩序な土地利用を整序、抑制しながら、インターチェンジ及びランプ周辺の特性を生かした流通業務施設や工業施設等の立地を適正に誘導します。

ウ 住宅系

- ・ 商業業務地周辺の複合住宅地では、軽工業等との調和のとれた住宅地の形成を図ります。
- ・ 林田地区においては、田園環境との調和を図りつつ、生活利便機能や交流機能を備えた住宅地の形成を図り、ゆとりある暮らしやコミュニティの育成を図ります。
- ・ 青山地区等の山麓部に開発された専用住宅地では、緑豊かで閑静な住宅地として、低層住宅を主体とした良好な住環境の保全を図ります。また、市街化調整区域に点在する住宅団地では、地区計画制度の活用により、現在の住環境の維持、保全を図ります。

(鉄道駅周辺)

- ・ J R 太市駅周辺地区において無秩序な土地利用を整序、抑制しながら、駅周辺の特性や実情に応じた適正な土地利用を誘導します。

エ 保全系

- ・書写山等の市街地を取り囲む丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。
- ・書写山については、地域を代表する自然環境や書写山円教寺等の歴史文化遺産に触れることができる拠点として、貴重な自然環境や歴史的風土を損なわない範囲での利用環境の向上を図ります。
- ・菅生川、大津茂川、林田川の流域に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備や集落の環境整備を図りつつ、集落景観等を創出する緑として保全、活用します。

③ 都市施設

ア 交通

ア) 公共交通

- ・JR余部駅・太市駅においては、都心部に向かう放射状道路の混雑を緩和し、地域内交通の円滑化を図るため、パークアンドライドを推進します。
- ・書写付近～姫路駅間の路線バスについては、バス優先レーンの設置や公共車両優先システムの導入等により定時性、速達性を高めます。また、（仮称）書写バスターミナルにパークアンドライド用駐輪場を整備し、利便性の向上を図ります。
- ・公共交通空白・不便地域においては、地域住民、交通事業者など多様な地域関係者と連携しながら、コミュニティバスの導入など生活交通の維持、確保に向けた取組を推進します。

イ) 道路

- ・放射道路を構成する国道線（国道2号）及び田井線並びに国道29号北線（国道29号）等の放射道路を骨格とした幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。

イ 公園・緑地

- ・自然観察の森、宿泊型児童館（星の子館）、姫路科学館（アトムの館）、県立こども館等と一体となった、子ども達の豊かな感性と創造力を育むレクリエーションの拠点として桜山公園の適正な維持管理と利用環境の向上を図ります。
- ・伊勢自然の里・環境学習センターでは、幅広い世代が楽しめる環境学習施設として、多様な生き物が生息できる環境を守り育てていくための取組を進めます。
- ・将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期未整備の都市計画公園・緑地については、廃止を含めた見直しを行います。

ウ 下水道・河川

- ・農業集落排水の公共下水道への統合を進め、改築更新費用及び維持管理費用の節減を図ります。

- ・都市化の進展に伴う雨水流出量の増大と集中豪雨による浸水被害の軽減を図るため、計画的な雨水排水施設等の整備を図ります。

④ 防災

- ・地域防災拠点として西出張所、林田出張所、書写中学校、林田中学校を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・森林、緑地の持つ保水機能等の保全と土砂災害等の防止を図ります。

⑤ 景観

- ・林田地区や青山地区等の古道沿いの歴史的町並みを、歴史的町並み景観形成ゾーンとして位置付け、陣屋町や宿場町のたたずまいを残す歴史的景観の保全、継承を図ります。
- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。



凡		例	
土 地 利 用		都 市 施 設	
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R 線
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄
			主要公園・緑地・墓園
			一級・二級河川
			水辺

■ 西部ブロックの将来像

11 香寺ブロック

(1) 地域づくりの目標

① 地域の概況

香寺ブロックは、中寺・香呂・香呂南校区からなる地域です。

西播丘陵が広がる丘陵・田園地域であり、地域東部を市川が貫流しています。また、市川に並行してJ R播但線と国道312号が通っています。

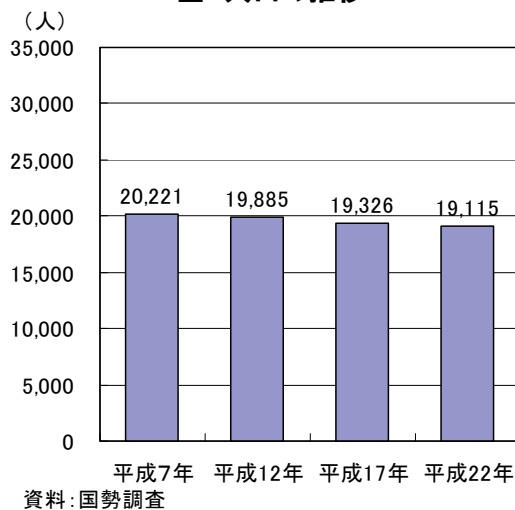
播磨工業地帯の後背地としての宅地化が進み、J R播但線と国道312号の沿線には食品関係等の事業所が立地するなど、農村地域から様相が変わりつつあります。

兵庫県集落地域整備基本方針の中で、営農条件と調和のとれた良好な居住環境を形成すべき地域と位置付けられている土師地区では、平成22年度に土地区画整理事業が完了しています。

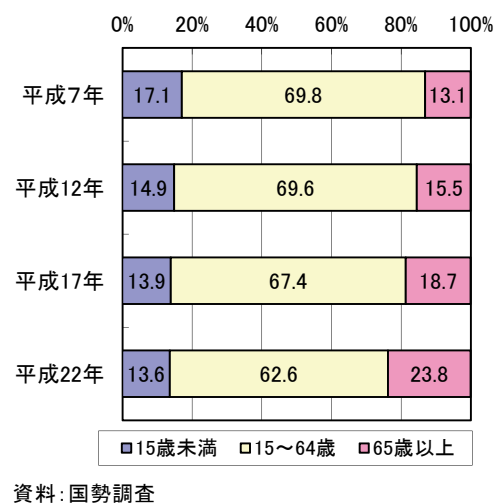
歴史的に古くからひらけた本地域には、由緒ある寺院、神社、史跡が散在しているとともに、日本玩具博物館、香寺民俗資料館等の文化・観光施設が立地しています。



■ 人口の推移



■ 年齢3区分別人口の推移



② 地域づくりのテーマ

交流を育む田園文化都市

③ 地域づくりの目標

◇ 住環境の向上を目指す田園文化都市づくり

自然に恵まれた水田地帯の維持、保全を図るとともに、子どもや高齢者にとって住みよい、文化的な生活環境の形成を目指します。

◇ 利便性の高い交通拠点づくり

J R香呂駅・溝口駅の駅前広場等の整備により結節機能の強化を図り、日常生活の利便性を高める交通拠点の形成を目指します。

◇ 緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地づくり

市街地を取り囲む丘陵周辺に開発された住宅地を中心に、道路や公園等の都市施設が整い、周囲の緑と調和したゆとりと潤いのある住宅市街地の形成を目指します。



日本玩具博物館



八徳山八葉寺

(2) 地域づくりの方針

① 拠点等

ア 地域核（準地域核）

- ・香寺事務所周辺地区を位置付けます。
- ・地域の拠点として、交通結節機能の向上を図るとともに、幹線道路の沿道地区を含めて、商業施設の充実を図り、地域住民の日常生活における利便性を高めていきます。

イ 歴史街道軸

- ・本地域には、播磨六山として名高い八徳山八葉寺など様々な歴史文化遺産があります。これらを地域資源として総合的に保存、活用していくとともに、生野道を歴史街道軸として位置付け、地域に散在する歴史文化遺産を散策、回遊できる歴史・文化ネットワークの形成を図ります。

② 土地利用

ア 商業系

- ・J R 香呂駅周辺を商業業務地とし、公共交通の利便性等にも配慮しながら、商業施設や生活利便施設を誘導します。

イ 工業系

- ・香寺町南部の既存の内陸工業地では、引き続き工業地としての土地利用を図ります。

ウ 住宅系

- ・香寺町溝口の複合住宅地では、軽工業等との調和のとれた住宅地の形成を図ります。
- ・一般住宅地及び専用住宅地では、適切な道路等の整備及び土地利用の誘導を通じて、良好な住環境を備えた中低層住宅地の形成を図ります。
- ・市街化調整区域の専用住宅地について、土師地区や岩部地区においては集落地区計画に基づく新規住宅等の適正な立地を誘導するとともに、点在する住宅団地では地区計画制度を活用し、現在の住環境の維持、保全を図ります。

エ 保全系

- ・地域西側及び北側に広がる丘陵は、良好な都市環境や都市景観を形成する重要な緑として保全を図ります。
- ・市川の流域に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備や集落の環境整備を図りつつ、集落景観等を創出する緑として保全、活用します。

③ 都市施設

ア 交通

ア) 公共交通

- ・J R 香呂駅・溝口駅については、駅前広場の整備やアクセス道路等の整備を推進し、

公共交通への乗換えや乗継ぎの利便性の向上を図るとともに、バリアフリー化を促進します。

- ・公共交通空白・不便地域においては、地域住民、交通事業者など多様な地域関係者と連携しながら、生活交通の維持、確保に向けた取組を推進します。

イ) 道路

- ・放射道路を構成する川手線を骨格とした幹線道路網の形成を図ります。また、将来にわたり効率的かつ責任ある都市施設の整備を推進するため、長期末整備の都市計画道路について、廃止を含めた見直しを行います。

イ 公園・緑地

- ・既設公園については、質の向上を目的とした再整備や維持管理のあり方について検討を進めます。

ウ 下水道・河川

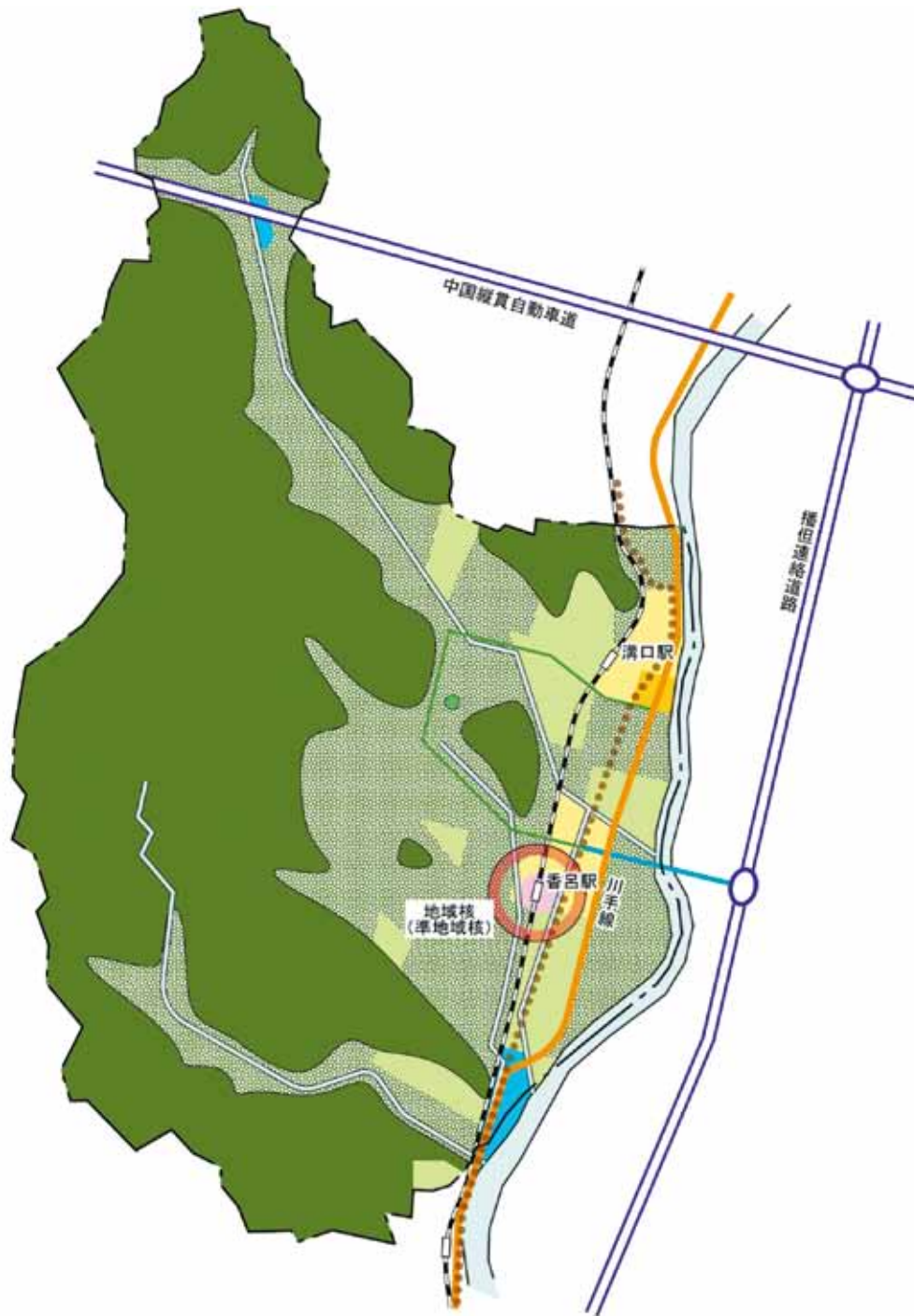
- ・農業集落排水の公共下水道への統合を進め、改築更新費用及び維持管理費用の節減を図ります。
- ・二級河川である市川については、河川整備計画に基づき、周辺環境に配慮し、適切な維持管理を促進します。

④ 防災

- ・地域防災拠点として香寺事務所、香寺総合公園スポーツセンター、香寺中学校、香寺温水プールを配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・森林、緑地の持つ保水機能等の保全と土砂災害等の防止を図ります。

⑤ 景観

- ・景観形成上重要な建造物については、その保存、修復を図るとともに、まちづくりの中での活用を図ります。



凡 例			
土 地 利 用		都 市 施 設	
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R 線
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄
			主要公園・緑地・墓園
			一級・二級河川
			水辺

■ 香寺ブロックの将来像

12 都市計画区域外

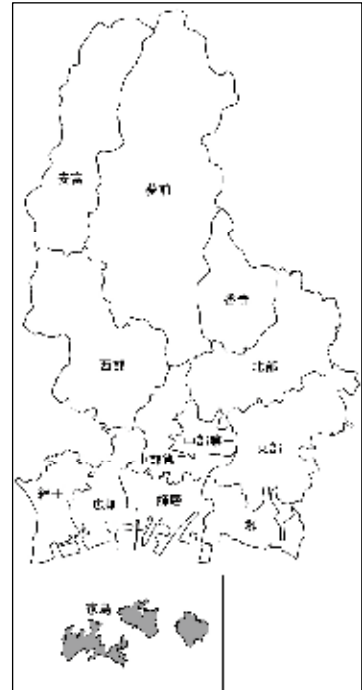
(1) 家島ブロック

① 地域の概況

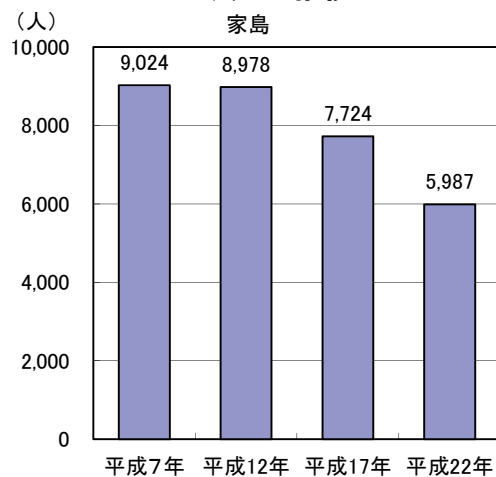
家島ブロックは、家島・坊勢校区からなる地域です。

瀬戸内海に位置する大小40余りの島々で構成されており、石材業や海運業、漁業を基幹産業として発達してきました。なかでも石材業と海運業は戦後、中京・京浜地区の工業地帯や空港の整備の際の埋立造成に、石材の提供とその海上輸送にあたり、大きな役割を果たしてきました。また、水産物の水揚量は県内第一位のシェアを占めています。

家島諸島の島々は、京阪神近郊のロケーションでは屈指と言える風光明媚な地域で、伝統文化を継承している家島神社の夏祭り、坊勢恵美酒神社の秋祭り、頂上石、住民手づくりのボランティアから始まった「ぼうぜペーロンフェスタ」等は、都市と漁村との賑やかな交流行事に育っています。

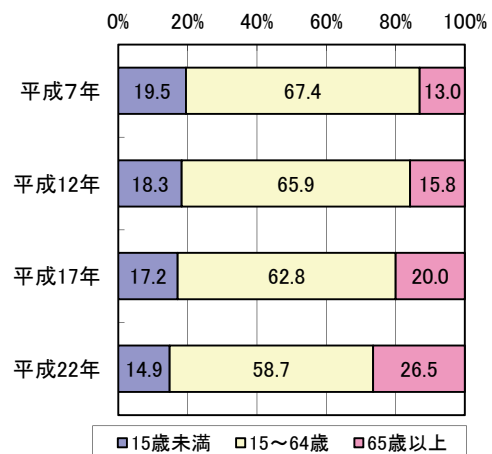


■ 人口の推移



資料:国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料:国勢調査

② 地域づくりの目標

- ◇ 利便性の高い海上交通ネットワークの形成
- ◇ 瀬戸内海の多島美を生かした「海業(うみぎょう)」振興の交流の場づくり
- ◇ 地場産業を生かした地域の活性化



坊勢ペーロンフェスタ



家島

③ 地域づくりの方針

ア 拠点等

- ・家島事務所周辺地区を地域核（準地域核）として位置付けます。

イ 土地利用

- ・山地・丘陵においては、森林や山地に係る各種制度の活用により豊かな自然環境の適正な保全、管理を図るとともに、国立公園に指定されている自然景観を生かした観光・レクリエーション地としての活用を図ります。

ウ 都市施設

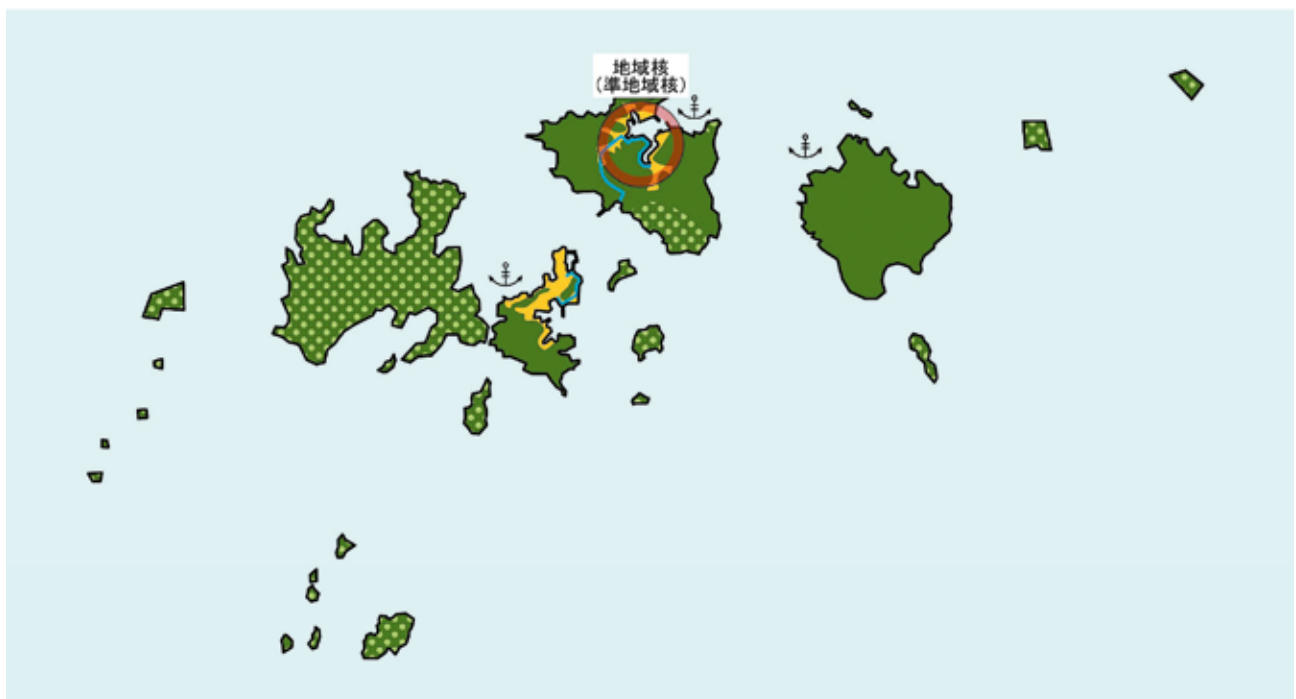
- ・姫路港と家島を結ぶ海上交通については、現状のサービス水準を維持しつつ、陸上交通との連携強化を図ります。
- ・地域住民、交通事業者など多様な地域関係者と連携しながら、生活交通の確保に向けた取組を進めます。

エ 防災

- ・地域防災拠点として家島事務所、家島中学校、家島高等学校を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。
- ・南海トラフ地震の発生に伴う津波に備えるため、地域住民等が参画した津波避難計画を策定するとともに、津波避難計画に基づく避難場所や避難路の確保を図ります。

オ 景観

- ・島の暮らしや伝統を尊重しつつ、自然環境、集落、港等が一体となった島らしい景観の保全、育成を図ります。



凡		例		
土 地 利 用		都 市 施 設 等		
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路	主要公園・緑地・墓園
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸	瀬戸内海国立公園
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R 線	一級・二級河川
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄	水辺

■ 家島ブロックの将来像

(2) 夢前ブロック

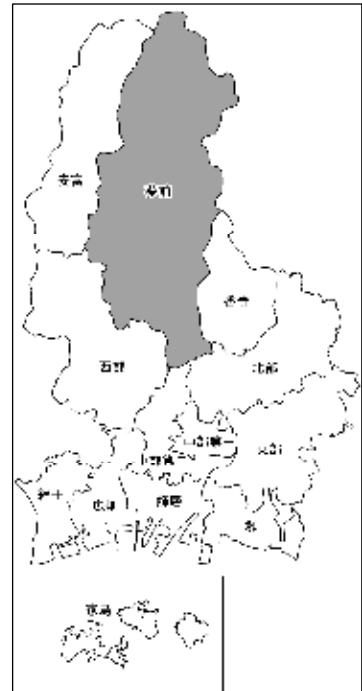
① 地域の概況

夢前ブロックは、置塩・古知・前之庄・苅野・上菅・菅生校区からなる地域です。

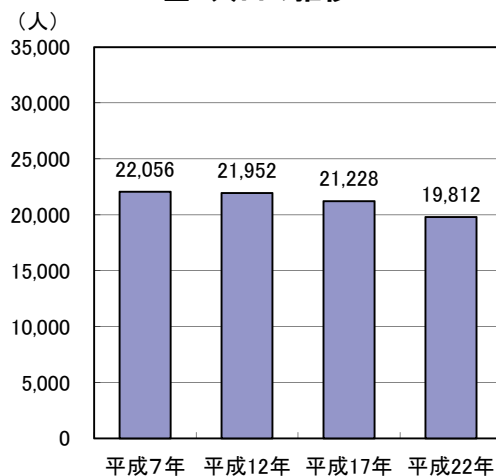
中国山地の山々が連なる森林丘陵・田園地域であり、雪彦山麓を源とする夢前川、菅生川が流れています。

播磨工業地帯の後背地として、都市近郊型農村としての基盤づくりを進めており、養鶏をはじめ、酒米の振興やひょうご安心ブランド認証制度を生かした安全安心の農作物生産、資源活用型観光農業への移行、山林資源の活用、優良企業の誘致による商工業の活性化等に力を注いでいます。

雪彦峰山県立自然公園に含まれる名峰雪彦山、播磨富士と呼ばれる明神山、古くから開けた塩田温泉など風光明媚な観光資源に恵まれているほか、多くの重要文化財を所蔵する弥勒寺、国指定史跡の置塩城跡等の貴重な歴史的文化遺産を数多く有しています。

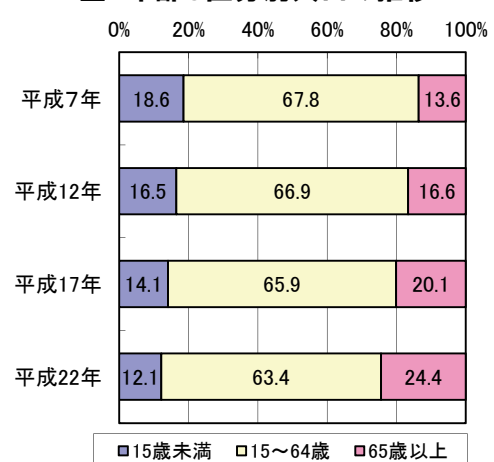


■ 人口の推移



資料：国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

② 地域づくりの目標

- ◇ 利便性の高い交通ネットワークの形成
- ◇ 緑と調和した住環境の形成
- ◇ 豊かな自然と温泉など恵まれた地域特性の活用



雪彦山



夢前川（新庄の桜）

③ 地域づくりの方針

ア 拠点等

- ・夢前事務所周辺地区を地域核（準地域核）として位置付けます。

イ 土地利用

- ・兵庫県「緑豊かな地域環境の形成に関する条例」による環境形成区域の区分に基づき、「まちの区域」等においては、人々の居住や都市的な活動の場として、良好な市街地環境の形成を図ります。
- ・山地・丘陵においては、森林や山地に係る各種制度の活用により豊かな自然環境の適正な保全、管理を図るとともに、自然保護に十分配慮しつつ、自然環境と調和したレクリエーション地としての活用を図ります。
- ・夢前川や菅生川の流域に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備による農用地としての土地利用を促進します。

ウ 都市施設

- ・安富地域や香寺地域との連携を強化し、ＪＲ播但線が活用できる環境を整えるため、これらの地域間を連絡するバス路線の導入を促進します。
- ・夢前事務所周辺では、バスの乗り入れやパークアンドライドの導入等を進め、公共交通の乗換えや乗継ぎの利便性を高めます。
- ・公共交通空白・不便地域においては、地域住民、交通事業者など多様な地域関係者と連携しながら、生活交通の維持、確保に向けた取組を進めます。
- ・地域住民の利便性向上や観光の振興、災害発生時における緊急輸送路の代替ルートの確保等を図るため、中国縦貫自動車道におけるスマートインターチェンジの設置を促進するとともに、そのアクセス道路の整備を推進します。
- ・コミュニティプラントの公共下水道への統合を進め、改築更新費用及び維持管理費用の節減を図ります。
- ・二級河川である夢前川については、河川整備計画等に基づき、周辺環境に配慮し、適切な維持管理を促進します。

エ 防災

- ・地域防災拠点として夢前事務所、鹿谷中学校、夢前高等学校を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。

オ 景観

- ・雪彦山や明神山等の自然景観や、置塩城跡等の優れた歴史的風土の保全を図ります。



凡 例			
土 地 利 用		都 市 施 設	
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R 線
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄
			主要公園・緑地・墓園
			一級・二級河川
			水辺

■ 夢前ブロックの将来像

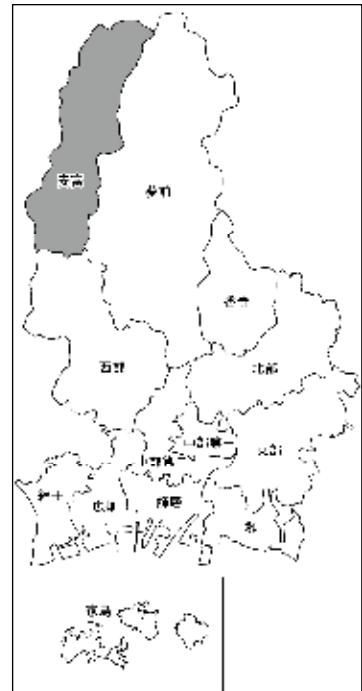
（3）安富ブロック

① 地域の概況

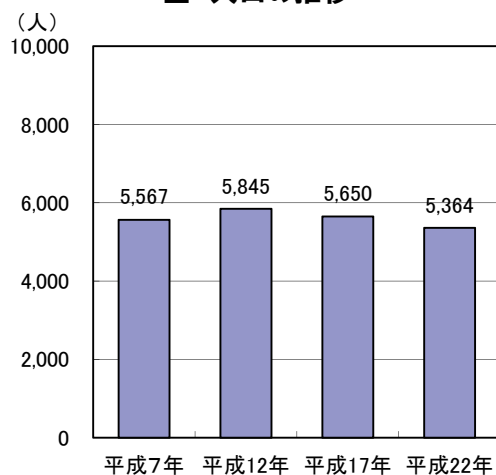
安富ブロックは、安富南・安富北校区からなる地域です。

中国山地の山々が連なる森林丘陵・田園地域となっており、地域中央部を林田川が流れています。また、地域の東西を中国縦貫自動車道が通り、地域南部を国道29号が南北に通っています。

地域内には重要文化財である古井家住宅をはじめ、塩野六角古墳、名勝鹿ヶ壺のほか、自然に恵まれた天然記念物、名所旧跡が多数あります。グリーンステーション鹿ヶ壺一帯にはコテージ、キャンプ場、遊歩道等が整備され、水と緑が織りなす自然美が連なったレクリエーションゾーンが形成されています。

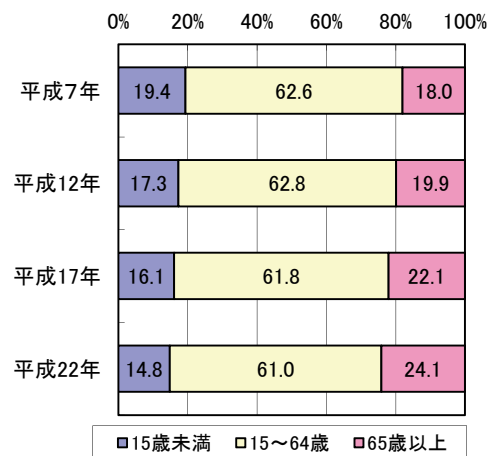


■ 人口の推移



資料:国勢調査

■ 年齢3区分別人口の推移



資料:国勢調査

② 地域づくりの目標

- ◇ 利便性の高い交通ネットワークの形成
- ◇ 緑と調和した住環境の形成
- ◇ 森林、丘陵部の豊かな自然環境の活用



古井家住宅（千年家）



名勝鹿ヶ壺

③ 地域づくりの方針

ア 拠点等

- ・安富事務所周辺地区を地域核（準地域核）として位置付けます。

イ 土地利用

- ・兵庫県「緑豊かな地域環境の形成に関する条例」による環境形成区域の区分に基づき、「まちの区域」等においては、人々の居住や都市的な活動の場として、良好な市街地環境の形成を図るとともに、安志北の台地区においては地区整備計画により、現在の住環境の維持、保全を図ります。
- ・山地・丘陵においては、森林や山地に係る各種制度の活用により豊かな自然環境の適正な保全、管理を図るとともに、自然保護に十分配慮しつつ、自然環境と調和したレクリエーション地としての活用を図ります。
- ・林田川の流域に広がる農地については、農業振興地域に指定されており、農業基盤整備による農用地としての土地利用を促進します。

ウ 都市施設

- ・夢前地域や香寺地域との連携を強化し、JR播但線が活用できる環境を整えるため、これらの地域間を連絡するバス路線の導入を促進します。
- ・安富事務所周辺では、バスの乗り入れやパークアンドライドの導入等を進め、公共交通の乗換えや乗継ぎの利便性を高めます。
- ・公共交通空白・不便地域においては、地域住民、交通事業者など多様な地域関係者と連携しながら、生活交通の維持、確保に向けた取組を進めます。
- ・コミュニティプラントの公共下水道への統合を進め、改築更新費用及び維持管理費用の節減を図ります。

エ 防災

- ・地域防災拠点として安富事務所、安富中学校、安富スポーツセンター、コミュニティ防災公園を配置するとともに、各小学校をコミュニティ防災拠点として配置します。これらの施設については、耐震性の向上や設備等の自立性を確保するなど防災機能の強化を図ります。

オ 景観

- ・雪彦山や鹿ヶ壺等の水と緑が織りなす自然景観の保全を図るとともに、自然とふれあえる場として活用します。



凡		例		
土 地 利 用		都 市 施 設		
拠点商業業務地	一般住宅地	自動車専用道路	補助幹線道路	主要公園・緑地・墓園
商業業務地	専用住宅地	幹線道路（環状）	歴史街道軸	一級・二級河川
工業地	農地・集落地	幹線道路（放射）	J R 線	水辺
複合住宅地	山地・丘陵	幹線道路（その他）	山陽電鉄	

■ 安富ブロックの将来像